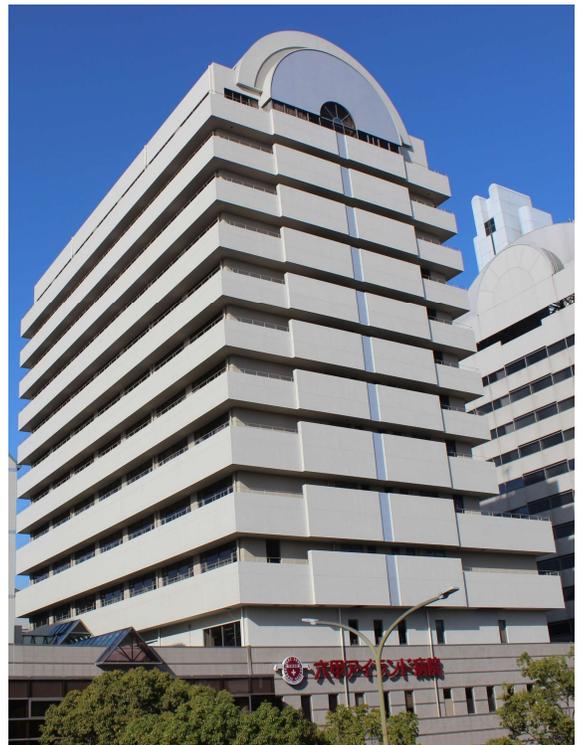




公益財団法人 **甲南会**

2024年度 事業報告書及び附属明細書



## 第1. 法人の概要

1. 基本理念	2
2. 甲南会の沿革	2
3. 組織・事業体系	2
4. 役員等一覧	3
5. 評議員会・理事会の開催	4
6. 病床数、標榜科目、職員数	5

## 第2. 各施設の概要

1. 甲南医療センター	6
2. 六甲アイランド甲南病院	34
3. 甲南介護老人保健施設	37
4. 甲南訪問看護ステーション	39
5. 甲南居宅介護支援事業所	40
6. 事務局	41

## 第3. 事業の概要

1. 公益目的事業の概要	42
2. 2024年度決算概況	60
3. 附属明細書	62

# 第1. 法人の概要

## 1. 基本理念

人類愛の精神に基づき、悩める病人のための病院たらん

創業者 平生鈺三郎



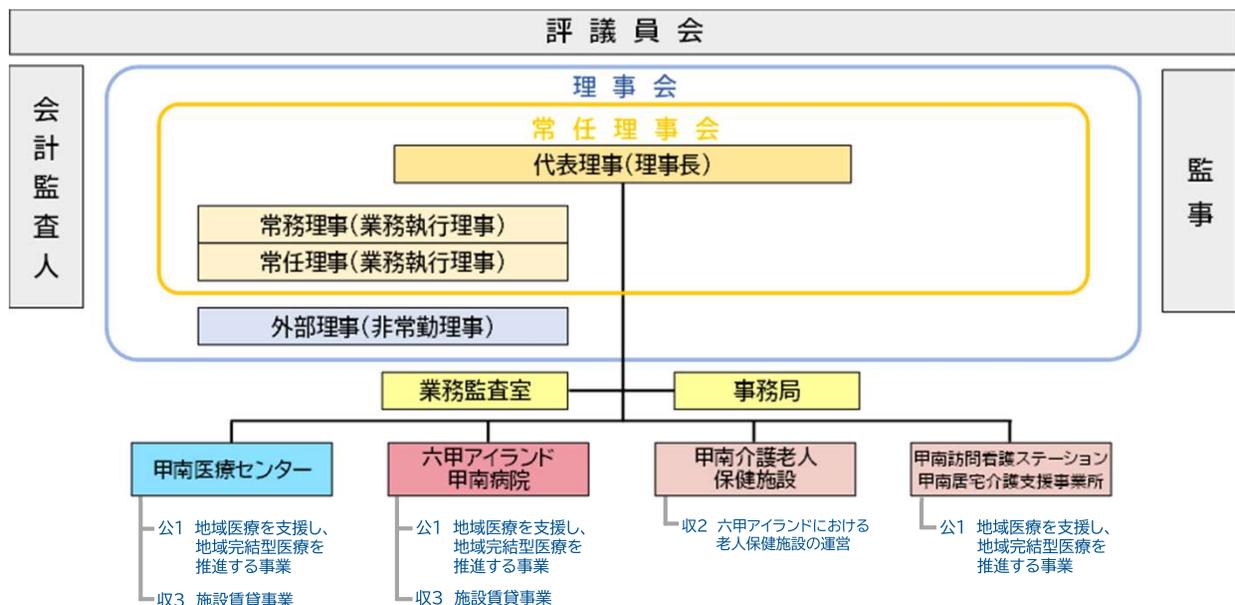
## 2. 甲南会の沿革

- |             |   |
|-------------|---|
| 1934年(昭和9)  | 6月17日、甲南病院開院、看護婦養成所開設   |
| 1945年(昭和20) | 第二次世界大戦終戦 11月、創業者平生鈺三郎死去(享年80歳)<br>甲南高等学校、甲南初等学校、甲南病院による合同葬を執り行う        |
| 1955年(昭和30) | 准看護婦養成所発足   |
| 1970年(昭和45) | 甲南病院附属高等看護学校開校  |
| 1974年(昭和49) | 労働組合結成  |
| 1992年(平成4)  | 4月、六甲アイランド病院開院 法人事務局を設置   |
| 1995年(平成7)  | 1月17日、阪神・淡路大震災で被災   |
| 2000年(平成12) | 国立加古川病院の移譲により、12月加古川病院開院  |
| 2001年(平成13) | 10月、甲南訪問看護ステーション開設 11月、甲南介護老人<br>保健施設及び甲南居宅介護支援事業所を開設                   |
| 2008年(平成20) | 看護専門学校を閉校し、甲南女子大学へ継承  |
| 2012年(平成24) | 「財団法人」から「一般財団法人」へ改称   |
| 2013年(平成25) | 新甲南病院建設事業計画(Konan事業ビジョン2020)開始  |
| 2018年(平成30) | 11月、甲南大学・甲南女子大学・神戸薬科大学・東灘区役所と共同し<br>医療人材育成を目的とした『東灘次世代医療人材育成コンソーシアム』を設立 |
| 2019年(令和元)  | 甲南会新キャラクター「ドクターこうにゃあ」と「MINAMIちゃん」が誕生                                    |
| 2020年(令和2)  | 4月、兵庫県より公益財団法人として認定を受ける<br>運営法人名を『一般財団法人甲南会』から「公益財団法人甲南会」に改称            |
| 2022年(令和4)  | 7月、新甲南病院建設事業計画(Konan事業ビジョン2020)完了                                       |
| 2024年(令和6)  | 3月、甲南加古川病院廃止(4月、医療法人伯鳳会に事業譲渡)   |



マスコットキャラクター  
ドクターこうにゃあとMINAMIちゃん

## 3. 組織・事業体系



## 4. 役員等一覧

※2025年3月末日現在

役職	氏名	就任日	略歴
評議員	山田 積	2013(平成25)年6月18日	新晃工業株式会社 元取締役
評議員	上塚 一也	2013(平成25)年6月18日	株式会社イチケン 元代表取締役社長
評議員	平野 欽一郎	2014(平成26)年6月20日	学校法人甲南学園 専務理事
評議員	下村 雅一	2015(平成27)年6月23日	学校法人甲南女子学園 常務理事
評議員	甲賀 淳	2016(平成28)年6月28日	東京海上日動火災保険株式会社 元広島支店長
評議員	廣岡 俊司	2016(平成28)年6月28日	一般財団法人住吉学園 監事
評議員	笠井 裕	2024(令和6)年6月19日	学校法人甲南学園甲南小学校 事務長
代表理事	具 英成	理事:2017(平成29)年6月29日 代表理事:2020(令和2)年12月13日	公益財団法人甲南会 甲南医療センター 院長
常務理事	三枝 康宏	理事:2015(平成27)年6月23日 常務理事:2020(令和2)年12月13日	公益財団法人甲南会 六甲アイランド甲南病院 院長
常任理事	山田 浩幸	2019(平成31)年6月26日	公益財団法人甲南会 甲南医療センター 院長代行
常任理事	堀口 美由紀	2022(令和4)年6月22日	公益財団法人甲南会 看護部 統轄看護部長
常任理事	高尾 信太郎	2023(令和5)年6月21日	公益財団法人甲南会 甲南医療センター 院長代行
理事	上村 多恵子	2012(平成24)年4月1日 ※設立時	京南倉庫株式会社 代表取締役社長 京南物流株式会社 代表取締役社長
理事	竹田 統	2015(平成27)年6月23日	一般財団法人住吉学園 理事長
理事	秋元 典子	2022(令和4)年6月22日	学校法人甲南女子学園 甲南女子大学 学長
理事	堀田 博	2023(令和5)年6月21日	神戸大学 名誉教授
理事	錦織 千佳子	2024(令和6)年6月19日	兵庫県赤十字血液センター 所長
監事	陰地 弘和	2012(平成24)年4月1日 ※設立時	公認会計士・税理士、陰地会計事務所 所長

役職	氏名	就任日	所在地
会計監査人	RSM清和	2013(平成25)年6月18日	神戸市中央区海岸通8番神港ビルヂング2
	監査法人		

## 5. 評議員会・理事会の開催

### (1) 評議員会

- ア 2024年度定時評議員会 2024年6月19日開催
- |       |                      |
|-------|----------------------|
| 第1号議案 | 評議員に関する件             |
| 第2号議案 | 理事・監事に関する件           |
| 第3号議案 | 役員報酬に関する件            |
| 第4号議案 | 2023年度事業報告書及び附属明細書の件 |

### (2) 理事会

- ア 2024年度第1回理事会 2024年6月4日開催
- |       |                               |
|-------|-------------------------------|
| 第1号議案 | 評議員に関する件(評議員会決議事項)            |
| 第2号議案 | 理事・監事に関する件(評議員会決議事項)          |
| 第3号議案 | 役員報酬に関する件                     |
| 第4号議案 | 2023年度事業報告書及び附属明細書の件          |
| 第5号議案 | 2023年度財務諸表等及び財産目録の件(評議員会決議事項) |
| 第6号議案 | 診療報酬改定と賃上げに関する件               |
| 第7号議案 | 2024年度夏期賞与支払いの件               |
| 第8号議案 | 定款の一部改正の件(評議員会決議事項)           |
| 第9号議案 | 2024年度定時評議員会招集の件              |

- イ 書面理事会 2024年7月1日付提案
- |       |                     |
|-------|---------------------|
| 第1号議案 | 2024年度会計監査人報酬に関する件  |
| 第2号議案 | 代表理事、常務理事及び常任理事選定の件 |
| 第3号議案 | 退任理事への慰労金支払いの件      |

- ウ 2024年度第2回理事会 2024年11月20日開催
- |       |                 |
|-------|-----------------|
| 第1号議案 | 2024年度冬期賞与支払いの件 |
|-------|-----------------|

- エ 2024年度第3回理事会 2025年3月19日開催
- |       |                      |
|-------|----------------------|
| 第1号議案 | 2024年度収支見込の件         |
| 第2号議案 | 2025年度事業計画(収支予算)の件   |
| 第3号議案 | 2025年度資金調達及び設備投資計画の件 |
| 第4号議案 | 役員報酬に関する件            |

## 6. 病床数、標榜科目、職員数

2025年3月末日の病床数、標榜科目、職員数は、下表のとおりとなっております。

施設名	届出病床	稼働病床	標榜科目	職員数
甲南医療センター	461	419	循環器内科、消化器内科、呼吸器内科、 糖尿病・内分泌・総合内科、腎臓内科、 (リウマチ内科)、脳神経内科、 腫瘍・血液内科、緩和ケア内科、放射線科、小児科、 皮膚科、精神科、消化器外科、乳腺外科、 (心臓血管外科)、呼吸器外科、整形外科、 リハビリテーション科、脳神経外科、眼科、 耳鼻咽喉科、泌尿器科、産婦人科、形成外科、 歯科口腔外科、麻酔科、救急科、病理診断科	921 (43)
六甲アイランド甲南病院	198	198	循環器内科、消化器内科、内科、脳神経内科、 腎臓内科、放射線科、小児科、皮膚科、神経科、 外科、(心臓血管外科)、(呼吸器外科)、整形外科、 リハビリテーション科、(脳神経外科)、眼科、 耳鼻咽喉科、泌尿器科、産婦人科、(形成外科)、 (麻酔科)、歯科・口腔外科	338 (33)
甲南介護老人保健施設	—	—	定員：入所80名、通所30名	65 (10)
甲南訪問看護ステーション	—	—	訪問看護	13 (1)
甲南居宅介護支援事業所	—	—	居宅介護支援	3
事務局	—	—		22 (1)
合計	659	617		1,362 (88)

( )診療科は休診中。 ( )職員数は非常勤・再掲。

## 第2. 各施設の概要

### 1. 甲南医療センター

#### 基本理念

##### 【理念】

人の手で接する最善の医療を追求し実現します。  
やがて創設100年を迎える基幹病院として公益と継続を重視し、  
全職員にて新たな歴史を紡ぎ、誇り高き病院を創ります。

##### 【行動指針】

1. 心技一体で心の深くに届く高質の医療を実践します。
2. 不断の救急医療を全職員で全うします。
3. 地域の医療機関、大学、行政との連携を強化し、総合力のある人材を育成し、絶えず進化する医療を構築します。
4. 最新機器を整備し、緑と静穏な療養環境のもと、安心、安全なチーム医療を実現します。
5. 患者・家族の尊厳を守り、個人情報を守ります。

#### 院長挨拶



具 英成 院長

甲南医療センターは、1934年(昭和9年)に旧甲南病院として創立され、以来、公的医療機関のない神戸市東灘区の地域医療を担い、営利本位に陥らず、全ての患者が名医の治療や手術が受けられる、患者本位の医療を追求する病院を目指して参りました。次の100年に向けて、これからも地域の皆様のご期待に添えるよう、最高の医療を届けるためにどのように変貌したか、引き続きご紹介いたします。

新たな創生を目指して2019年10月にⅠ期工事を完工し、脳神経外科、泌尿器科、循環器内科、小児科、産婦人科などの診療科の充実を図り、380床の急性期病院として稼働しました。2022年2月にはⅡ期工事を完工し、461床の急性期病床を有する地域屈指の総合病院として装いを新たにしました。

2022年のグランドオープンでは、旧甲南病院発祥の地である鴨子ヶ原に最新最高の設備を備えた新病院が完工しました。このようなハード面の充実とともに、優秀な医療人材を集約し育成することを通じて、地域へのさらなる貢献を目指します。

近年、医療では遺伝子工学、AIやロボットなど様々な技術革新が進んでいます。しかし、技術が高度になり時代が変われど、人の手で接する心の深くに届く医療を実践すべく、職員一同が力を合わせ新病院へのご期待に沿えるよう臨んで参ります。

甲南会は心技一体、質の高い医療、人の手で心の深くに届く医療を今後も間断なく実践して参ります。

また、本会は2020年度からは公益財団法人として装いを新たに地域医療に邁進しています。神戸市の東部において急性期医療を担う甲南医療センター、回復後日常生活へ戻るための支援を担う六甲アイランド甲南病院、2病院がシームレスに連携して役割分担をさらに強めて、地域の皆様の健康を守ります。

地域の皆様から高い評価が頂けるよう、誇り高き病院創りを進めて参ります。

皆様の変わらぬご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

#### 特色

東灘区には、公的医療機関がなく、古くから地域医療を旧甲南病院が担っていました。2019年には、甲南医療センターに改称し、急性期医療に特化した施設に生まれ変わり、2022年春には、全ての施設・設備が整い、次の100年に向けた新たな歴史が始まりました。また、ハード面だけでなく、高台立地を凌駕する高度な医療水準と人の手で接する温かい心を兼ね備えた最善の医療を推進し、地域の皆様に最高の医療を実現してまいります。

甲南医療センターは、これからはすべての人に健康と福祉をお届けしながら、住み続けられる街づくりに貢献して参ります。

#### 沿革

1934年(昭和9)	病院開設(118床)、6月17日に開院式、看護婦養成所開設
1972年(昭和47)	西館増築、病床数277床へ
1979年(昭和54)	神戸市二次救急病院指定
1982年(昭和57)	南館新設、病床数298床へ
1984年(昭和59)	開院50周年記念式典
1987年(昭和62)	東館新設、病床数400床へ
1995年(平成7)	阪神・淡路大震災で被災
2004年(平成16)	医師臨床研修病院指定
2006年(平成18)	病院機能評価(Ver.4)認定
2009年(平成21)	DPC適用病院
2011年(平成23)	病院機能評価(Ver.6)認定
2013年(平成25)	新甲南病院建設事業(Konan事業ビジョン2020)開始
2015年(平成27)	緩和ケア病棟設置、病床数380床へ
2016年(平成28)	病院機能評価(3rdG:Ver.1.1)認定
2019年(令和元年)	甲南医療センター建設Ⅰ期工事完成
2020年(令和2)	地域医療支援病院認可
2021年(令和3)	病院機能評価(3rdG:Ver2.0)認定
2022年(令和4)	甲南医療センター建設Ⅱ期工事完成、病床数461床へ



▶ 診療実績

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均 入院 患者数	2020	301	327	309	307	311	310	305	312	309	310	311	299	310
	2021	317	308	320	314	320	306	311	315	295	311	308	349	315
	2022	341	350	329	319	316	338	332	341	341	355	346	331	337
	2023	319	351	348	355	381	352	342	363	336	373	364	371	355
	2024	361	332	333	360	367	346	347	349	358	377	381	371	357
1日平均 外来 患者数	2020	579	636	660	691	722	745	735	751	779	746	768	760	714
	2021	767	785	730	800	774	818	804	815	850	819	797	826	798
	2022	821	844	787	827	785	875	854	854	872	835	831	860	837
	2023	850	853	823	878	819	843	846	851	866	867	864	876	853
	2024	822	823	820	808	789	852	833	823	847	875	847	854	833
新入院 患者数	2020	832	772	848	908	1009	905	977	974	989	911	799	974	908
	2021	969	916	978	983	967	947	937	977	904	898	802	1004	940
	2022	919	1028	965	957	941	1024	986	1031	1062	1008	965	1091	998
	2023	1004	1093	1099	1132	1172	954	1081	1079	976	1056	988	987	1052
	2024	1016	1046	1009	1220	1116	1026	1125	1126	1109	1064	1059	1080	1083
中央手術室に おける 手術件数	2020	360	292	346	373	406	407	432	413	446	402	339	435	388
	2021	421	369	415	414	414	433	448	465	429	371	363	510	421
	2022	431	417	462	408	445	438	464	455	466	455	442	502	449
	2023	442	438	471	427	464	405	473	480	407	435	424	436	442
	2024	447	422	401	497	471	430	493	481	473	461	436	483	458

## 診療科紹介

### ▶ 循環器内科

#### ▶ これからの展開

甲南医療センター開院後 約5年が経過し、断らない循環器救急を実践しており、カテーテル、PCI件数は年々増加、2024年度は年間のPCI件数も400件を超え、また緊急でのPCIも年間100件と神戸市でも有数の症例数の多い病院となっている。循環器疾患は虚血性心疾患、弁膜症、不整脈、末梢動脈疾患、心不全などがあり緊急を要する疾患が多く迅速な対応が不可欠でありクリニック、近隣の病院とは循環器疾患のホットラインを設け、スムーズな受け入れを行っている。SNSや病院主催のWEB会議といったICTを活用した病院連携にも取り組んでいる。救急隊とは密接な協力体制を取りHOT LINEも活用し積極的な循環器救急受け入れを行っている。今後も病診連携、病病連携を積極的に進めてゆく。

#### ▶ 得意領域の深化

カテーテル治療、不整脈、心エコー、心不全などの専門医が多数在籍しており、すべての循環器疾患に対応している。虚血性心疾患に対しては、従来のステント治療だけでなくロータブレード、DCB(Drug-coated Balloon)による治療を行っている。また、重症大動脈弁狭窄症に対しては、バルーンによる治療(BAV)を、心房細動、心房粗動、発作性上室性頻拍症など頻脈性不整脈に対しては積極的にカテーテルアブレーション(ABL)を行っている。心不全治療に関しても最新のエビデンスに基づいた加療、心臓リハビリを行い、六甲アイランド甲南病院との病病連携、クリニックとの病診連携も行っている。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均 入院患者数	2021	32.7	29.7	27.7	24.6	21.3	25.3	26.3	32.9	30.6	40.8	29.6	41.0	30.3
	2022	45.9	47.4	42.6	36.9	33.6	40.9	44.8	53.6	46.8	51.3	47.9	51.6	45.2
	2023	43.9	40.8	34.3	40.3	37.9	36.0	38.2	46.9	41.0	50.7	50.0	40.4	41.7
	2024	43.4	44.4	45.8	41.5	45.1	37.6	45.1	42.8	45.9	42.2	48.1	50.5	44.4
1日平均 外来患者数	2021	59.0	60.6	53.3	60.3	58.9	65.0	60.3	59.2	63.0	63.2	61.5	62.2	60.5
	2022	64.3	63.8	57.9	62.8	59.8	65.5	66.8	66.8	68.8	69.3	66.4	62.2	64.5
	2023	68.2	65.3	60.9	62.6	59.7	64.4	65.0	68.5	70.0	73.3	72.7	68.4	66.6
	2024	66.9	67.8	66	65.5	64.9	70.3	66.5	69.4	69	73.6	70.8	65.7	68.0
新入院患者数	2021	96	90	88	81	78	89	83	104	91	110	75	94	89.9
	2022	106	121	93	101	75	105	118	125	107	119	117	132	109.9
	2023	115	125	110	123	108	105	111	134	112	119	125	102	115.8
	2024	111	123	117	120	132	107	140	146	151	121	136	134	128.2

※2020年度診療実績については、診療科ごとの統計区分が2021年度以降と異なるため、掲載しておりません。  
(次ページ以降も同様です。)

## ▶ 消化器内科

### ▶ これからの展開

- ①スタッフのワークライフバランスの改善と様々な疾患・病態に対応できる診療体制を両立するため、スタッフの増員が急務である。
- ②外来枠がすでに飽和状態であり、新たな紹介患者を受けていくには、病診連携を効率よく行える体制づくりが必要である。
- ③初期研修医、後期専攻医の研修を積極的に受け入れ育成する。
- ④大学や連携施設と人や技術の交流をし、レベルアップを目指す。
- ⑤コメディカルの内視鏡技士資格取得者も増やしていきたいと考えている。

### ▶ 得意領域の深化

- ①早期消化管がんの内視鏡診断治療：正確な術前範囲診断。瘢痕症例など困難例にも対応。部位に応じて全身麻酔下に施行。症例に応じて消化器外科との合同手術も施行。確実かつ低侵襲な治療の実現。
- ②胆膵系内視鏡検査・治療：熟達した技術を必要とするEUS、ERCP関連手技を施行。術後再建腸管症例に対してもダブルバルーン小腸内視鏡を使用して処置を施行。
- ③緩和的治療としての内視鏡手技：消化管ステント留置や胆管ステント留置、EUS-CPN(EUS下腹腔神経叢ブロック)など、症状緩和目的の治療内視鏡を施行。
- ④消化管機能性疾患の診断治療：特に食道アカラシアは神戸大学と連携し食道運動機能評価しPOEM施行。
- ⑤炎症性腸疾患の診断治療：厚生労働省治療指針に基づいた治療。新規認可薬剤による治療にも対応。神戸大学との連携。
- ⑥慢性肝疾患の診断治療：ウイルス性肝炎、MASLD/MASH(脂肪性肝疾患)、自己免疫性肝疾患、肝臓癌など肝疾患の診断治療に対応。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均 入院患者数	2021	33.1	36.1	34.5	31.2	35.3	38.5	37.4	43.0	35.2	35.9	33.1	29.5	35.2
	2022	40.3	38.9	25.5	34.2	26.9	44.2	39.1	44.7	42.5	40.3	35.7	40.7	37.8
	2023	40.0	40.8	40.9	41.9	46.3	37.0	41.1	34.3	31.8	39.8	40.1	30.4	38.7
	2024	27.6	23.2	33.6	39.6	42.6	33.5	32.1	29.7	25.7	36.6	34.2	30.4	32.4
1日平均 外来患者数	2021	54.7	52.9	51.3	54.1	54.4	58.1	59.0	63.1	67.9	58.7	60.6	56.5	57.3
	2022	61.6	64.3	60.9	57.9	55.0	61.7	65.6	60.8	64.2	59.6	61.3	65.1	61.5
	2023	61.0	59.4	56.2	62.2	57.0	58.9	61.3	61.6	62.0	58.3	62.1	62.2	60.2
	2024	55.1	57.7	56.3	53.6	52.5	60.4	58.2	55.9	55.4	53.9	61.6	59.0	56.6
新入院患者数	2021	134	136	123	117	148	134	158	131	138	110	101	145	131.3
	2022	138	123	106	105	100	147	123	144	135	118	113	139	124.3
	2023	127	119	120	123	143	116	138	113	91	103	117	87	116.4
	2024	104	90	109	122	137	99	101	89	92	95	98	106	103.5

## ▶ 呼吸器内科

### ▶ これからの展開

呼吸器内科は2020年4月に開設し、呼吸器専門医2名で診療を開始した。神戸大学呼吸器内科の関連病院では、兵庫県内で最も東に位置する病院である。長らく呼吸器内科の専門医を擁する総合病院がなかったエリアであり、神戸市東灘区周辺地域の患者や、地域医療を行っている先生方のご要望に応じていけるように取り組んでいきたい。2022年度の増床に伴い、より多くの方の診療を行っていきたいと考えている。現在は指導医2名、専門医1名を含む6人体制となり、外来、入院ともフレキシブルに対応できており、近隣施設からの紹介も増えてきている。

### ▶ 得意領域の深化

肺炎や結核・非結核性抗酸菌症などの呼吸器感染症、肺癌、間質性肺炎、気管支喘息や慢性閉塞性肺疾患（COPD）など幅広く診療を行っている。2024年4月からは常勤の呼吸器内科スタッフが計6名となった。また、看護師や薬剤師とも協力し、重症喘息の治療にも力を入れている。2025年2月からは、兵庫県内で初めて肺非結核性抗酸菌症の専門外来を開設した。呼吸器外科や放射線科との連携もできており、様々な診断・治療の選択肢をご提供できるものと考えている。救急搬送される肺癌や間質性肺炎急性増悪の患者も増えており、救急部との協力関係を強化していく。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均 入院患者数	2021	11.4	9.7	12.2	11.8	8.5	10.1	8.0	7.9	11.7	16.5	9.9	13.5	10.9
	2022	7.7	7.5	8.0	5.3	5.7	9.3	7.1	8.9	9.0	10.6	9.1	10.2	8.2
	2023	13.3	14.2	15.6	18.5	20.1	19.2	21.8	22.5	19.2	22.8	20.8	21.5	19.1
	2024	17.7	17.3	13.4	15.5	14.0	16.9	13.9	16.2	19.1	22.1	19.5	17.0	16.9
1日平均 外来患者数	2021	13.1	12.3	11.5	11.7	12.2	10.8	12.5	14.5	14.2	15.4	13.4	12.2	12.8
	2022	12.6	13.6	12.9	13.0	11.8	14.3	14.1	14.1	15.3	14.5	13.1	13.1	13.5
	2023	16.1	19.3	16.6	19.0	16.2	19.5	18.7	19.6	21.2	19.8	20.1	20.7	18.9
	2024	22.0	20.9	23.3	24.4	20.4	22.6	21.7	23.2	22.9	25.6	23.8	26.0	23.1
新入院患者数	2021	29	29	32	35	21	24	17	20	37	35	23	29	27.6
	2022	14	27	24	15	16	22	15	18	25	22	17	25	20.0
	2023	38	45	41	50	45	43	56	47	37	48	44	41	44.6
	2024	40	47	42	47	45	45	44	47	47	50	43	45	45.2

## ▶ 糖尿病・内分泌・総合内科

### ▶ これからの展開

糖尿病患者さんは現在も増え続けているが、その検査・治療に関しては着実に進歩を遂げてきている。次々と新たな薬剤が登場し、テクノロジーを駆使した新たな機器によって糖尿病診療が変わろうとしている。持続血糖モニターCGM/FGM、持続皮下インスリン注入CSII、その利点を合わせたSAP治療等、これらの機器を使用することにより、患者の状態を詳細に解析し適切に対応することができるようになってきた。当科を受診された患者に対しても、最新の情報を提供し、適切に対応することによって、今まで以上に細かく病態把握を行い、その患者に合った治療法の選択を行えるように努めている。

### ▶ 得意領域の深化

当院では糖尿病センターとして、腎臓内科、循環器内科、眼科、脳神経外科、整形外科、形成外科等の糖尿病に関連する多くの診療科と連携をとることにより、糖尿病合併症に対してもきめ細やかな対応に取り組むことが可能となっている。また日本糖尿病学会指導医4名、専門医5名に加えて、看護師、薬剤師、栄養士、理学療法士、公認心理師を始めとする医療スタッフによるチーム医療によって糖尿病診療の質を上げるよう努力している。入院期間中でのスタッフからの教育指導や、外来での糖尿病療養指導、栄養指導、薬剤指導、フットケア指導等で効果を上げている。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均 入院患者数	2021	40.9	37.6	33.8	32.4	35.9	35.2	29.5	29.0	24.7	27.1	30.4	36.6	32.8
	2022	22.8	23.9	24.4	22.6	25.2	22.3	20.8	24.7	29.5	25.5	19.3	20.3	23.5
	2023	17.1	22.5	20.5	23.9	31.5	32.1	17.3	22.8	18.8	22.5	27.9	30.7	24.0
	2024	25.1	23.9	20.2	23.2	19.8	17.3	16.7	17.8	17.5	21.8	17.9	22.5	20.3
1日平均 外来患者数	2021	52.4	61.1	52.0	56.6	53.4	58.3	56.7	55.0	56.8	61.7	54.5	52.3	55.9
	2022	51.6	53.5	49.8	56.2	50.7	54.8	54.0	52.5	57.6	55.9	55.6	52.7	53.7
	2023	51.6	52.1	52.0	55.5	50.2	53.7	54.8	53.9	56.5	53.8	55.8	55.1	53.8
	2024	49.5	51.7	51.1	50.5	49	52.2	50.2	49.9	51.5	57.2	52.1	50.3	51.3
新入院患者数	2021	85	86	76	71	79	91	63	57	48	60	67	80	71.9
	2022	42	56	51	53	50	49	46	66	90	44	41	42	52.5
	2023	38	55	49	67	73	44	35	45	38	49	53	47	49.4
	2024	46	45	37	55	46	43	31	35	47	41	36	45	42.3

## ▶ 腎臓内科

### ▶ これからの展開

蛋白尿から維持透析までの一貫した腎臓病診療を継続・発展させるため、まずは病診連携を一層密にしていくことが重要と考えている。慢性腎臓病に対するチーム医療としての取り組みを充実させ、慢性腎臓病透析予防管理料を算定するようにしていく。また、腎臓病教室は年2回の開催をめざしたい。

### ▶ 得意領域の深化

透析導入患者の高齢化が進み、血液透析治療を開始しても家に帰ることができず、入院透析を継続せざるを得ない例が増えている。一方、在宅治療である腹膜透析は、高齢者であっても家族や訪問看護師のサポートで治療が行える場合がある。高齢であるからといって諦めずに、腹膜透析の説明を行い、腹膜透析導入を増やすようにしている。訪問看護ステーションのスタッフと一緒に勉強会を繰り返し行って、知識・情報を共有して連携を保つようにしている。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均 入院患者数	2021	20.5	20.9	20.2	16.4	24.5	16.5	17.4	15.8	19.4	23.2	27.8	20.9	20.3
	2022	17.6	21.2	16.0	18.5	20.4	18.8	15.9	17.2	16.8	17.9	17.2	16.2	17.8
	2023	19.4	24.5	21.5	22.5	21.9	19.7	13.4	19.1	19.2	24.7	21.3	25.5	21.1
	2024	22.9	15.5	12.4	17.4	16.5	12	12.4	15.6	19.1	19.2	19.1	19.6	16.8
1日平均 外来患者数	2021	71.9	85.1	71.2	84.0	77.3	76.5	72.0	72.1	78.0	80.2	73.7	71.1	76.1
	2022	71.1	74.6	64.4	70.8	64.6	71.8	69.7	67.5	71.2	74.8	66.3	66.4	69.5
	2023	69.2	70.9	64.0	72.4	66.8	67.7	65.0	66.2	66.6	72.9	66.8	68.6	68.1
	2024	63.7	63.1	61.7	57.8	61.4	63.2	59.5	62	61	68.2	59.7	59.5	61.7
新入院患者数	2021	37	47	38	44	65	34	41	31	52	52	36	36	42.8
	2022	31	47	34	35	40	39	30	38	43	38	40	44	38.3
	2023	48	41	40	59	47	37	42	41	42	45	34	43	43.3
	2024	36	42	33	46	36	30	40	40	40	53	41	41	39.6

## ▶ 脳神経内科

### ▶ これからの展開

甲南医療センター自体が東灘の地域に根ざした救急医療に力を入れており、それに伴い脳神経内科も脳卒中や神経救急に診療の重点を移し、フットワークの軽い脳神経内科を目指している。また、医師の働き方改革が叫ばれており、スタッフの増員にともない脳神経内科では主治医制からチーム制へ移行し、その結果として医師一人ひとりの負担の軽減を目指している。そのため毎日朝夕にカンファレンスを行い、全入院患者を全スタッフで把握し、質の高い医療の維持に努めている。

### ▶ 得意領域の深化

脳卒中診療に力を入れており、脳神経外科とタッグを組んで質の高い診療を行うことを目指している。そのため、に2021年4月より脳神経外科と週1回合同カンファレンスを開催し、症例や最新の治療法・ガイドラインの共有を行い、診療科に関わらず標準的な治療を患者に提供できる行う体制を構築している。また、前述とは別にリハビリカンファレンスも行い、リハビリテーション科も含め、多職種による円滑なチーム医療を行うようにしている。さらに、2022年1月からは毎週火・木・金曜日の夜間に脳神経内科もしくは脳神経外科医が必ず当直を行い、断らない脳卒中診療を目指し、血栓溶解療法や血栓回収療法の件数も増加している。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均 入院患者数	2021	6.8	7.5	8.9	9.1	6.8	11.4	12.9	13.5	11.7	11.3	10.8	17.7	10.7
	2022	12.5	15.9	15.5	13.3	13.4	18.4	14.7	15.3	15.2	16.0	11.0	12.6	14.5
	2023	14.9	23.1	23.7	17.5	19.0	16.9	14.5	19.7	17.2	21.6	21.3	16.0	18.8
	2024	20.1	22.4	19.4	20.7	23.8	23.2	20.3	17.2	24.5	26.5	24.3	23.7	22.2
1日平均 外来患者数	2021	21.5	23.3	22.9	25.8	24.5	25.9	25.2	26.9	27.9	23.7	25.6	26.5	25.0
	2022	27.4	27.7	27.3	28.9	27.5	29.1	27.3	28.4	30.0	28.5	28.4	28.8	28.3
	2023	31.6	30.0	31.6	33.7	30.7	33.5	30.1	31.3	29.6	29.8	27.7	32.5	31.0
	2024	29.0	27.6	30.3	29.7	29.8	30.3	29.0	30.6	29.9	31.9	29.6	31.2	29.9
新入院患者数	2021	13	21	16	10	11	23	19	18	21	18	18	30	18.2
	2022	33	30	32	32	27	39	30	30	31	25	21	29	29.9
	2023	40	41	36	41	42	24	32	27	23	30	24	37	33.1
	2024	33	49	37	46	42	48	42	43	46	53	45	47	44.3

## ▶ 腫瘍・血液内科

### ▶ これからの展開

分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬の出現により、がんのできた臓器に関わらない臓器横断的治療が広く行われるようになった。血液領域において新たな作用機序の薬剤である二重特性抗体が使用可能となっており今までに経験することの少なかった副作用に対する理解が必要不可欠となっている。

これらの新規機序の薬剤は今後、固形腫瘍、血液腫瘍の両領域において適応が広がっていくと思われる。

また、がんの早期発見、化学療法および支持療法の進歩に伴いがん患者の「治療と仕事の両立」が重要視されてきている。外来・入院での化学療法スケジュールの柔軟な対応が必要とされる。本人や周囲の方々の疾患、治療、副作用の理解も必要である。医療関係者は患者の考え方、生活環境、職場環境などの背景を理解しておく必要がある。

上記のことから、これまで以上に多職種によるサポートが重要視されていく。医療従事者間でコミュニケーションをしっかりと取り包括的なサポートを行っていく。

### ▶ 得意領域の深化

がんの医療では遺伝子情報にもとづく個別化治療が進んできている。免疫チェックポイント阻害薬の併用など治療の選択肢も増えてきている。標準的治療が終わってからも遺伝子検査で効果が期待できる薬剤の選択ができることもある。最近、固形腫瘍だけでなく、造血器腫瘍の遺伝子パネルが保険適応になった。遺伝子検査によって効果が期待できる薬剤が見つかる可能性がある反面、本人が望むような明確な結果が得られない場合や、自分以外に家族が疾患に罹りやすいかどうか予測される場合がある。そのため、検査には十分な説明が必要であり神戸大学医学部附属病院で連携を密にして遺伝子パネル検査を活用している。

新規治療薬、支持療法の進歩により高齢者でも抗がん剤治療の適応が広がり、予後の改善も望めるようになってきている。幅広い年齢層にしっかりと情報提供を行い適切な治療が受けられるように啓蒙を行っていく。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均 入院患者数	2021	16.4	16.4	19.2	20.6	16.9	17.0	22.3	18.9	19.6	17.0	15.9	18.4	18.2
	2022	26.2	24.7	22.5	17.2	18.3	18.9	16.6	16.9	15.9	22.3	18.4	18.9	19.7
	2023	18.3	13.8	13.9	15.7	26.0	22.4	20.3	16.9	19.8	22.2	23.3	23.8	19.7
	2024	26.4	19.0	21.6	26.9	23.2	21.6	18.9	18.8	17.0	19.5	16.9	16.3	20.5
1日平均 外来患者数	2021	38.9	38.1	36.8	37.0	36.1	38.7	35.7	39.0	41.1	35.5	39.6	38.2	37.9
	2022	36.7	38.7	37.9	38.6	34.3	42.3	39.5	39.5	42.0	38.0	39.7	39.0	38.8
	2023	39.5	35.4	39.1	39.7	36.3	37.7	37.3	40.0	42.1	39.6	41.8	41.3	39.2
	2024	40.2	41.7	40.7	39	38.4	41.2	39.6	40.3	41.1	40.4	43.1	40.6	40.5
新入院患者数	2021	39	37	40	46	43	46	51	52	45	49	40	50	44.8
	2022	54	59	67	51	59	53	49	53	50	55	45	56	54.3
	2023	50	42	52	59	84	45	45	48	35	61	56	61	53.2
	2024	67	59	55	74	65	59	53	56	55	58	53	55	59.1

## ▶ 緩和ケア内科

### ▶ これからの展開

新病院となり、さらにactiveとなっていく病院に合わせ、緩和ケア内科、緩和ケア病棟一丸となり、さらにAcute Palliative Care Unit(急性期緩和ケア病棟)として、入院が必要な苦痛を抱えたがん患者の受け入れを強化していきたい。また、高度な専門的緩和ケアの提供を行うべく、日本トップクラスの治療・ケアが行えるようにスタッフのスキルアップも行っていきたい。

### ▶ 得意領域の深化

甲南医療センター緩和ケア病棟の強みは「緊急対応」と「地域連携」と言える。緩和ケア病棟の「神戸市東部の住民が安心して療養できる環境を質の高いレベルで提供していく」というミッションを共有し、休日・夜間問わず、在宅療養されている患者に、入院が必要となった場合には受け入れを行っている。(事前に入棟面談受診後の患者に限る)

また、なるべく患者がご自宅で苦痛なく過ごせるよう、訪問診療を行う医療機関、訪問看護ステーション、ケアマネージャーらと綿密な連携をとっている。この綿密な連携により速やかな入院受け入れが可能となっている。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均 入院患者数	2021	16.8	14.5	15.9	15.7	17.0	15.3	12.3	14.5	17.6	16.6	14.1	13.7	15.3
	2022	21.0	17.1	17.2	18.2	15.8	18.2	16.2	13.4	13.5	14.6	16.9	18.2	16.7
	2023	11.7	15.9	14.7	17.5	16.0	15.2	17.9	16.5	16.1	15.1	17.2	18.1	16.0
	2024	14.8	11.8	13.8	15.3	17.5	17.6	17.5	15.3	17.7	19.0	20.1	18.8	16.6
1日平均 外来患者数	2021	0.9	0.5	0.7	0.6	0.6	0.8	0.6	1.3	1.0	1.3	1.4	1.8	1.0
	2022	1.4	1.2	1.4	0.8	1.3	1.4	1.4	1.6	2.0	1.8	2.7	2.1	1.6
	2023	0.8	1.6	1.2	1.2	1.2	0.9	1.3	0.8	0.9	1.5	0.8	0.7	1.1
	2024	1.0	1.4	1.3	1.4	0.9	1.3	2.1	2.5	3.1	2.0	2.3	2.0	1.8
新入院患者数	2021	29	18	28	29	22	20	22	29	31	25	26	29	25.7
	2022	28	25	26	21	26	30	23	25	25	23	29	27	25.7
	2023	18	23	36	27	26	22	18	24	30	16	23	25	24.0
	2024	22	19	19	29	25	27	23	19	22	13	24	24	22.2

## ▶ 放射線科

### ▶ これからの展開

診断専門医6人、専攻医3人の計9人が在籍している。病院機能の統合や遠隔画像診断技術の発達に伴って、六甲アイランド甲南病院の人員を甲南医療センターへ集約し、甲南会2病院の画像診断業務を全て担っている。これによって読影業務の効率化のみならず、知識の共有や他科の医師・パラメディカルとのコミュニケーションを活性化が得られ、これまで以上の医療水準を提供できるよう努めている。また、2019年秋より、タブレット端末(SYNAPSE ZERO、富士フィルムメディカル®)を用いた遠隔画像診断も導入している。甲南医療センターの掲げる「24時間365日断らない救急」を後押しできるよう、夜間・休日を問わず読影可能な体制としている。

### ▶ 得意領域の深化

近年、人工知能(Artificial Intelligence: AI)の技術がますます進歩している。一時は「医療へのAIの導入により放射線科医が不要になる」といった話も囁かれていた。しかし、CT/MRIを含めた最新の医療技術に触れる機会の多い放射線科医にとってAI技術との親和性は高く、現在では「放射線科こそが医療へのAI導入の先進的・中心的役割を果たす」という流れへ変化しつつある。AI技術の導入は大学病院レベルのみならず、甲南医療センターにおいても徐々に進んできている。(CTコログラフィーでのポリープ解析、肝細胞癌に対するTACE時の腫瘍血管解析など)AIと共存し、これらの技術を駆使して、将来的にもさらに精度の高い医療を提供できるようにする。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均 入院患者数	2021	0.7	0.3	0.1	0.2	0.2	0.5	0.7	1.4	0.6	0.8	1.1	0.7	0.6
	2022	0.5	0.6	0.4	0.6	0.3	0.5	0.7	0.1	0.3	0.5	0.4	0.2	0.4
	2023	0.0	0.4	0.7	0.2	0.3	0.5	0.4	0.7	0.4	0.5	0.1	0.1	0.4
	2024	0.0	0.1	0.1	0.1	0.2	0.4	0.0	0.8	0.3	0.5	0.2	0.1	0.2
1日平均 外来患者数	2021	7.1	5.4	5.4	6.3	7.0	6.9	7.0	8.1	9.0	6.8	6.7	8.2	7
	2022	7.9	9.3	8.3	7.4	6.3	9.0	7.6	9.6	9.3	7.8	8.5	8.1	8.3
	2023	8.9	7.7	8.1	9.3	7.6	7.8	7.4	7.7	9.4	9.3	7.8	7.8	8.2
	2024	8.3	8.7	9.2	10.0	8.3	8.5	9.2	9.7	9.4	9.3	9.1	10.1	9.2
新入院患者数	2021	6	2	4	3	5	3	5	6	5	4	10	4	4.8
	2022	4	6	5	5	3	2	5	1	4	3	2	4	3.7
	2023	1	2	5	4	1	3	4	6	2	2	1	0	2.6
	2024	1	3	1	2	2	2	0	6	0	3	2	1	1.9

## ▶ 小児科

### ▶ これからの展開

東灘区・灘区で唯一の小児病棟を持つ病院として、入院が必要な子どもを受け入れている。年間に約1,000~1,300人の入院がある。また、神戸市の小児二次救急輪番病院として、神戸市全体から救急車や急病の子どもが集まって来る。小児病棟は25床で、感染症の多い小児の疾患に対応できるよう個室を多く準備している。小児の内科疾患だけではなく、耳鼻科や整形外科、形成外科などの手術が必要な子どもたちも入って来るので病棟には病棟保育士を配置し、子どもの年齢に応じた療養支援を行っている。新生児室は保育器が4台あり、低出生体重児や、生直後の新生児のトラブルに対応できるようになっている。

### ▶ 得意領域の深化

小児科医は感染症などの急性疾患全般に十分な経験を持つだけでなく、それぞれが専門分野を持ち、専門的な診療を行っている。現在、アレルギー学会専門医が2名(うち1名が指導医)、頭痛専門医が1名在籍しており、アレルギー外来、腎外来、頭痛外来などを開設している。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均 入院患者数	2021	11.3	16.6	22.2	22.2	12.7	8.8	9.0	7.8	7.3	6.6	7.5	6.2	11.5
	2022	7.8	12.0	10.9	13.6	14.3	16.5	13.1	13.0	13.5	14.4	13.4	14.9	13.1
	2023	14.6	19.1	23.5	19.9	17.0	19.6	16.7	16.5	18.1	14.4	13.2	15.2	17.3
	2024	16.8	23.9	20.8	23.4	21.8	19.7	19.8	20.8	20.5	15.9	18.1	14.6	19.7
1日平均 外来患者数	2021	19.0	23.5	22.1	24.7	22.3	23.2	22.0	19.8	24.9	22.5	20.9	22.6	22.3
	2022	20.7	23.8	21.4	29.0	27.0	26.9	24.1	21.3	24.7	24.8	24.6	25.6	24.5
	2023	23.6	25.6	27.5	26.9	26.9	24.9	26.8	26.8	27.4	23.0	24.0	28.1	26.0
	2024	21.4	22.6	23.5	25.9	26.8	25.8	24	25.7	27.7	24.4	24.8	27.1	25.0
新入院患者数	2021	89	106	128	135	86	65	61	66	65	60	41	47	79.1
	2022	65	87	75	99	102	104	84	89	90	91	96	110	91.0
	2023	103	124	125	128	129	110	104	115	106	92	84	97	109.8
	2024	102	127	111	133	106	98	108	115	113	99	86	88	107.2

## ▶ 皮膚科

### ▶ これからの展開

乾癬、アトピー性皮膚炎の治療薬である生物学的製剤が使用できるようになった。生物学的製剤は、乾癬、アトピー性皮膚炎でそれぞれ深く関わっているIL(インターロイキン)の働きを抑えることで症状を改善させる薬剤であるが、これまでの治療(外用剤や内服薬、紫外線治療など)では十分な効果が得られなかった方が対象となる。残念ながらすべての患者に適応があるわけではないが、当院でも積極的に導入を行っている。クリニックなどからの生物学的製剤導入を目的とする紹介が今後も増えていくと考えられる。

### ▶ 得意領域の深化

皮膚の感染症、带状疱疹(ヘルペス)などの患者をはじめ、入院加療も積極的に実施し、皮膚腫瘍の手術や、薬疹、接触皮膚炎などのアレルギー疾患に対するパッチテスト、皮膚テスト等のアレルギー検査も行っている。乾癬や掌蹠膿疱症等に対する光線療法、陥入爪治療や蕁麻疹、にきび(ざ瘡)、脱毛症などの皮膚症状についても対応している。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均 入院患者数	2021	3.5	2.7	6.5	4.5	3.8	2.1	3.1	4.3	3.6	2.1	4.4	5.7	3.9
	2022	7.1	3.7	6.4	6.1	5.9	4.0	4.7	3.5	3.8	2.5	2.8	5.5	4.7
	2023	6.2	2.5	5.6	5.7	6.4	4.5	4.2	4.1	5.0	6.3	5.3	4.6	5.0
	2024	5.0	5.1	5.3	5.8	4.1	2.7	5.9	3.0	1.8	2.6	3.9	3.0	4.0
1日平均 外来患者数	2021	35.2	38.3	32.5	39.1	39.0	40.8	38.3	36.4	38.5	34.9	36.1	38.0	37.3
	2022	37.6	40.3	34.2	35.6	34.8	41.1	39.5	41.1	38.9	39.6	37.6	44.6	38.8
	2023	43.8	44.0	44.4	45.3	41.8	44.7	44.5	43.5	44.5	44.6	48.8	47.4	44.8
	2024	42.5	43.3	42.3	42.6	45.0	43.3	39.2	37.8	35.9	38.2	36.0	33.1	39.9
新入院患者数	2021	9	10	15	15	8	10	7	10	8	10	8	13	10.3
	2022	15	13	13	15	13	10	18	10	18	8	10	24	13.9
	2023	13	13	23	13	13	16	9	11	16	13	13	8	13.4
	2024	12	14	15	18	8	8	21	11	4	7	9	6	11.1

## ▶ 精神科

### ▶ これからの展開

院内他診療科からの依頼を受け、外来診察や入院患者へのリエゾンチーム回診を行うのが主な業務内容だが、救急外来での対応など精神疾患の発症急性期に介入となるケースも少なくない。他科と連携を図りながら、総合病院の精神科として限られた資源の中でできる限りの対応を今後も行っていくが、単科精神科病院など精神科入院施設のある他科病院との連携を改めて強化していく。

### ▶ 得意領域の深化

当院の精神科リエゾンチームは精神科医2名、臨床心理士2名、看護師1名で構成されている。それぞれが様々な診療科との合同カンファレンスや頻回の病棟訪問などから情報を幅広く収集し精神疾患が疑われる患者への早期介入、詳細な病状変化の把握、迅速な治療対応の実践を目指している。病棟回診前のリエゾンチームカンファレンスでは各専門領域の視点から最適な介入方法について意見交換を行い、多職種ならではの複合的な解決策を今後も行っていく。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均 外来患者数	2021	9.4	8.9	8.2	9.3	9.0	9.6	8.7	8.6	8.4	9.6	8.3	7.4	8.8
	2022	6.3	7.6	7.5	9.2	9.4	9.4	10.2	8.7	8.4	8.3	8.7	9.3	8.6
	2023	9.4	10.5	9.0	8.9	9.2	10.4	10.0	11.2	10.9	10.3	10.1	10.1	10.0
	2024	10.2	10.1	8.8	8.4	6.5	7.6	7.0	7.4	7.4	8.4	7.6	8.1	8.1

## ▶ 消化器外科

### ▶ これからの展開

甲南医療センター消化器外科は特になんがん診療に力を入れており、消化器内科、腫瘍血液内科、放射線科、病理診断科、緩和ケア内科と密に連携している。がん診療を定期的に開催し、当院で推奨される方針を決定する。さらに、リハビリテーション部、栄養管理部とも協力し、患者の術前、術後の適切な管理を行っている。病棟でも看護部、薬剤部と多職種チームで患者の安心・安全につながる医療の実践に努めている。

救急医療にも力を入れており、24時間365日のオンコール体制で、地域の皆様に貢献できるようなシステム構築をしている。術直後で自宅退院が困難な場合には、六甲アイランド甲南病院を中心とした施設とも連携し患者やご家族の状況に応じたフォローアップができるよう調整し、大病院にはない小回りや温かみで、患者に満足していただけるよう務めている。

また2024年より消化器病センター外来枠を増設し、消化器疾患に対する診療科横断的な対応を可能とし、地域の消化器診療の要として体制整備を進めている。

神戸東部、芦屋を中心とした地域に根ざし、住民の皆様の信頼を得られるよう、チーム一丸で診療レベル向上を図っている。

### ▶ 得意領域の深化

当科の手術は、およそ80%が腹腔鏡手術となっている。スタッフのうち6名が日本内視鏡外科学会技術認定医の資格を有しており、技術面でも高い質が担保されている。2023年からロボット支援下手術を導入し、直腸手術・胃手術・膵手術・鼠径部ヘルニア手術を実施しており、肝切除手術も導入予定である。

また、食道外科専門医(1名)や肝胆膵外科高度技能専門医(2名)も在籍しており、高難度手術も実施可能な施設であることも特徴と言える。

ロボット支援手術を中心とした低侵襲手術から、高難度手術まで幅広く実施できる数少ない施設であり、地域への貢献度を高めるべくこれからも研鑽に努めていく。

また、神戸大学を中心とした外科専門医研修プログラムの連携施設として専攻医を受け入れ、若手外科医の教育・指導にも力を入れており、将来の外科診療を支える人材育成を目指していく。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均 入院患者数	2021	19.3	20.5	20.0	21.0	19.3	19.8	20.0	22.0	18.7	18.9	22.3	19.4	20.1
	2022	17.7	15.4	20.5	18.5	19.8	23.1	24.1	20.3	25.3	22.2	22.5	17.5	20.6
	2023	16.2	23.7	25.3	24.8	24.7	26.5	31.3	27.4	26.6	24.5	24.3	25.9	25.1
	2024	29.0	23.5	24.6	25.1	27.5	30.4	33.9	32.9	25.8	22.9	29.8	28.1	27.8
1日平均 外来患者数	2021	22.4	19.6	21.1	23.2	23.1	22.0	26.8	24.9	23.7	25.5	22.9	25.6	23.4
	2022	22.3	26.1	23.0	20.3	21.4	22.6	23.9	25.7	25.8	23.9	25.6	24.1	23.7
	2023	24.3	27.6	24.0	26.8	24.5	26.5	27.5	25.4	28.4	29.6	27.8	28.0	26.7
	2024	27.4	28.0	30.1	26.9	27.1	30.2	29.5	26.5	27.6	30.6	32.1	32.4	29.0
新入院患者数	2021	44	55	45	50	54	59	46	54	43	41	44	59	49.5
	2022	50	53	49	47	58	54	60	47	56	51	56	50	52.6
	2023	46	61	56	62	58	58	74	55	56	61	58	64	59.1
	2024	67	60	55	74	68	61	72	80	76	73	71	79	69.7
中央手術室に おける 手術件数	2021	33	43	39	41	42	39	48	55	40	40	37	57	42.8
	2022	48	42	51	32	46	43	50	47	56	46	51	50	46.8
	2023	35	53	47	46	51	44	52	51	40	49	45	48	46.8
	2024	54	56	42	66	48	58	57	61	71	56	58	61	51.5

## ▶ 乳腺外科

### ▶ これからの展開

乳腺専門医/指導医の資格を持ち経験豊富な医師が中心になって、乳癌をはじめとする乳腺疾患全てに対応可能となっている。手術は、整容性温存を駆使した乳房部分切除を実施し、やむなく乳房切除術を受ける患者に対しては、形成外科との協力で、同時・異時再建、人工物あるいは自己組織を用いた再建術を選択肢として提供している。また、遺伝診療部、産婦人科との協力で、遺伝性乳癌の診断、遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する予防的乳房切除、予防的卵巣切除いずれにも対応している。どのようなステージの乳癌患者に対しても、腫瘍内科、放射線科の協力のもと、術前、術後化学療法はじめ、集学的治療を駆使して根治にあたっている。また、再発患者に対しても、積極的治療から緩和治療科との連携で終末期在宅療養に至るまで、あらゆる段階での治療を行っている。今後はコメディカルスタッフとともにプレストチームとして、全ての乳腺疾患患者に対処していきたい。

### ▶ 得意領域の深化

外来診療は手術日(火曜日)以外の毎日行い、基本的に診療は完全予約制として、患者サポートセンターを通じて、新規紹介、乳癌二次検診、セカンドオピニオンを全て受けている。また、乳癌地域連携パスを活用して、紹介医、地域の開業医と乳癌患者の連携診療を積極的に行っている。治療に関しては、頭皮冷却装置を導入し、化学療法患者の脱毛予防処置を積極的に行っている。また、腫瘍内科、産婦人科と協力して遺伝診療部を立ち上げ、遺伝性乳癌を中心に遺伝カウンセリングを行い、遺伝性腫瘍診療の院内体制づくりを進めている。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均 入院患者数	2021	0.9	2.5	1.4	1.0	1.0	0.4	1.3	0.7	0.8	1.5	1.8	2.7	1.3
	2022	0.9	1.7	2.5	1.2	2.6	1.9	2.2	2.1	1.1	0.9	2.4	0.8	1.7
	2023	1.5	1.1	1.6	2.9	1.7	2.1	2.8	3.5	0.9	3.1	2.0	1.8	2.1
	2024	2.2	2.5	2.6	2.5	3.0	3.0	3.5	2.5	4.0	4.1	3.4	2.0	2.9
1日平均 外来患者数	2021	13.8	13.7	11.5	12.6	10.1	13.0	14.3	13.0	11.5	14.9	13.2	13.5	12.9
	2022	16.8	14.9	15.4	15.5	13.3	16.3	16.6	15.7	16.0	14.0	14.6	15.5	15.4
	2023	12.7	15.0	13.5	14.1	14.5	12.1	14.7	17.8	14.5	14.7	16.5	14.7	14.6
	2024	13.7	16.6	15.7	15.0	15.2	15.8	17.4	17.8	14.0	17.1	16.1	15.6	15.8
新入院患者数	2021	4	8	7	3	7	3	5	6	5	10	9	9	6.3
	2022	6	11	11	8	14	14	12	7	6	8	10	6	9.4
	2023	8	10	6	15	9	9	14	15	11	22	16	11	12.2
	2024	16	20	21	18	16	16	22	16	23	18	19	14	18.3
中央手術室に おける 手術件数	2021	4	9	5	5	1	2	4	4	2	4	6	9	4.6
	2022	5	6	7	5	10	7	9	7	4	6	5	4	6.3
	2023	4	5	6	7	8	5	10	8	4	9	5	3	6.2
	2024	5	3	3	11	9	7	8	7	11	12	8	6	7.5

## ▶ 呼吸器外科

### ▶ これからの展開

2022年度よりそれまでの1名体制から2名体制になり、手術件数も年間40台から2024年は一年間で87例まで増加している。現在も年間100例の大台に迫るペースで症例は増えており、ロボット施設認定も視野に肺癌手術年間50例を目標に呼吸器内科、放射線科、病理診断科他、呼吸器カンファレンスにて連携し手術症例を維持する。

### ▶ 得意領域の深化

救急科の充実に伴い外傷を含めた胸部救急疾患が増加しており、当科においても救急オンコール体制を維持し、外傷を含めた地域の胸部外科緊急疾患の症例集約に努める。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均 入院患者数	2021	1.6	2.6	2.5	3.0	3.7	2.3	2.4	2.6	2.0	1.5	2.5	1.4	2.3
	2022	2.3	5.5	5.2	5.3	6.1	5.5	6.2	4.7	5.2	5.8	5.4	6.6	5.3
	2023	7.2	9.4	5.1	6.5	5.7	4.7	7.1	7.8	6.0	5.1	3.9	9.7	6.5
	2024	10.6	5.3	6.4	6.0	5.7	3.1	6.9	6.1	5.8	5.6	6.1	5.9	6.1
1日平均 外来患者数	2021	0.8	1.3	1.6	1.7	1.6	1.5	1.7	2.1	2.1	1.2	2.3	1.9	1.6
	2022	2.0	3.8	2.3	2.2	2.4	3.0	3.1	2.9	3.3	4.2	4.3	4.0	3.1
	2023	3.4	4.8	3.9	4.4	3.9	3.4	3.4	3.8	4.0	3.9	4.9	4.8	4.1
	2024	4.3	5.2	4.6	4.8	4.5	4.8	4.1	4.7	4.9	4.6	4.9	5.3	4.7
新入院患者数	2021	8	4	8	7	3	6	6	8	8	7	6	6	6.4
	2022	10	14	12	8	8	15	8	8	11	7	13	12	10.5
	2023	13	13	11	12	13	8	14	15	14	12	14	23	13.5
	2024	22	17	13	20	11	12	17	14	14	15	17	15	15.6
中央手術室に おける 手術件数	2021	6	1	3	4	6	3	6	6	4	1	2	2	3.7
	2022	4	5	3	8	3	5	5	4	5	3	5	7	4.8
	2023	5	9	2	7	5	7	6	7	6	4	4	7	5.8
	2024	13	8	8	9	8	6	5	7	8	9	8	8	8.1

## ▶ 整形外科

### ▶ これからの展開

近隣クリニックや病院からの紹介患者も徐々に増えてきており、地域における当科の信頼度も高くなってきていると考える。これからは救急病院としての役割だけではなく変性やスポーツ疾患を中心とした、いわゆる慢性疾患の患者さんの手術、加療に力を入れていきたい。

引き続きたくさんの方々の信頼と期待に沿えるよう、高度かつ先進的でありながらも、正確、安全で温かみのある医療を提供していきたいと考える。

### ▶ 得意領域の深化

慢性疾患、特に変形性膝関節症や股関節症で痛みを訴える患者は多い。このような患者は当院ではナビゲーションシステムを用いて人工関節手術を行っているが、今後はさらに最先端の手術法を導入し、より短時間で正確かつ安全な治療を提供したいと考えている。このような取り組みを近隣にアピールすることにより紹介患者も増加が期待できると思われる。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均 入院患者数	2021	44.8	38.4	38.7	43.1	47.8	45.3	49.1	41.9	42.4	46.3	45.0	54.2	44.8
	2022	51.6	54.2	52.2	54.4	61.0	53.6	52.5	50.7	46.5	58.5	64.0	46.9	53.8
	2023	42.8	45.1	47.1	37.7	46.1	42.6	41.5	47.5	46.1	47.9	50.1	55.8	45.9
	2024	50.1	47.6	45.6	47.6	46.8	48.5	44.9	50.9	52.5	52.2	54.6	54.9	49.7
1日平均 外来患者数	2021	86.9	84.6	83.8	89.7	85.9	89.3	88.4	89.4	97.0	94.3	93.4	97.8	90.0
	2022	99.7	101.5	96.9	102.3	98.5	106.8	100.5	105.1	102.4	100.2	98.1	109.6	101.8
	2023	102.6	101.6	94.2	105.2	96.1	98.9	95.0	96.6	102.1	99.9	95.4	101.7	99.1
	2024	91.2	89.7	86.5	87.7	82.7	94.6	91.0	83.8	98.9	101.2	93.3	93.8	91.2
新入院患者数	2021	89	66	75	89	85	78	95	85	100	84	84	94	85.3
	2022	97	86	90	92	104	89	104	106	100	129	98	115	100.8
	2023	82	93	99	81	89	82	98	103	105	105	98	100	94.6
	2024	94	86	86	97	105	81	100	101	96	93	92	83	92.8
中央手術室に おける 手術件数	2021	78	60	72	71	76	67	76	88	93	76	72	92	76.8
	2022	83	82	82	70	88	75	88	87	85	102	88	97	85.6
	2023	72	75	75	72	87	66	84	96	84	76	78	86	79.3
	2024	76	71	68	73	92	75	97	88	93	86	73	83	81.3

## ▶ 脳神経外科

### ▶ これからの展開

脳神経外科手術において、神経内視鏡や術中超音波検査および手術ナビゲーションなどのマルチモダリティを駆使して、より侵襲性の低い開頭術を実践する。また、脳血管障害の分野においては、その治療法の進歩により、これまで治療が困難であった部位に生じた脳動脈瘤に対して、ステント支援下でのコイル塞栓術や血流改変ステントを用いた脳動脈瘤治療などの従来の治療法より低侵襲かつ有効性の高い治療を展開していく。これまでと同様に敷居が低く受診しやすい脳神経外科でありながら、最先端の高度医療を提供していく。また、難度の高い治療を提供するに際し、十分な治療効果を納得していただき、かつ医療過誤を避けるために、患者や家族に丁寧に病状を説明し、理解を深めて頂いた後に治療を受けていただけるような『よくわかるやさしい脳神経外科』を引き続き目指していく。

### ▶ 得意領域の深化

脳卒中の外科技術指導医と脳血管内治療指導医を揃え、より安全かつ有効な治療を選択できるように多角的な視点から診断治療を行っている。実際の診療においては、4名の脳外科医と4名の神経内科医の計8名が連携して、当院の「断らない救急」診療に準拠した脳卒中診療体制を構築している（目下、脳卒中学会が脳卒中・循環器病対策基本法に基づいて押し進める脳卒中診療体制の構築において、当院はより専門性の高い施設基準である「一次脳卒中センター（PSC）コア」認定の取得に積極的に取り組み、脳神経外科医1名が脳血栓回収療法実施医資格（2024年4月認定）を取得し他2名は脳血管内治療指導医および専門医で構成されている）。

各々の専門性に応じた疾患別脳卒中診療を実践することで、より専門性の高い診断治療をさらに発展的に行っていく。また、脳腫瘍や頭部外傷に対しても、周術期にICUにおいて専任のスタッフとともに、神経集中モニタリングでリアルタイムに病状を把握し、病状の変化に即座に対応できるシステムを構築している。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均入院患者数	2021	16.2	18.3	17.0	18.4	21.3	18.7	15.6	16.2	13.9	14.1	18.8	25.0	17.8
	2022	25.8	23.2	21.0	12.5	10.9	11.6	15.0	14.2	17.1	17.6	20.3	17.0	17.1
	2023	18.6	17.7	13.5	16.3	17.3	13.1	14.1	19.0	14.1	16.3	12.2	14.8	15.6
	2024	16.0	14.0	13.7	18.0	15.9	17.0	14.1	14.2	20.3	30.1	21.5	19.0	17.8
1日平均外来患者数	2021	8.8	8.9	8.9	9.0	7.1	11.2	9.6	9.1	9.5	8.3	8.3	9.4	9.0
	2022	9.7	8.9	8.2	7.8	7.9	8.3	8.9	8.3	9.4	8.1	7.9	10.0	8.6
	2023	11.0	8.9	9.1	8.4	8.5	10.0	9.1	10.7	9.3	9.3	10.0	10.1	9.5
	2024	8.2	10.2	10.6	8.8	8.4	10.1	9.4	10.8	9.7	9.4	8.8	9.9	9.5
新入院患者数	2021	40	28	30	24	30	34	29	27	26	20	30	36	29.5
	2022	27	25	28	24	19	22	31	26	34	33	28	29	27.2
	2023	33	33	25	25	28	25	30	41	25	28	31	29	29.4
	2024	28	26	35	42	29	30	25	46	43	43	40	32	34.9
中央手術室における手術件数	2021	24	15	30	58	22	1	11	25	43	26	13	66	27.8
	2022	14	7	7	2	2	8	7	8	7	12	12	13	8.3
	2023	9	12	11	8	13	16	10	10	6	3	10	10	9.8
	2024	17	9	10	15	13	18	5	24	20	19	16	18	15.3

## ▶ 眼 科

### ▶ これからの展開

甲南医療センターの眼科は、直近年間約1,400件の手術(硝子体注射を含まない)を実施している。コロナ渦で大きく手術件数が減った眼科施設が多い中、当科の手術件数はコロナの影響は軽微で堅調であった。2024年は働き方改革の導入やICU当直増加、手術室のマンパワー低下などにより、定期手術枠のやりくりが大変ではあったが結果的には2023年より手術件数は微増した。引き続き近隣の眼科クリニックの信頼を維持し、手術件数を堅持していくためにも経年劣化が目立ってきている眼科機器のスムーズな更新など、診療レベルの向上にも注力していきたい。

### ▶ 得意領域の深化

両眼白内障短期入院手術や短期硝子体手術などを積極的に推奨している安全性を維持できている。引き続き短期入院手術を積極的に推奨して、入院で生じる患者側の負担、および病院側の業務負担、コストの軽減につなげていきたい。

### 【参考】直近5年間の当科の手術件数の推移

項目	2020	2021	2022	2023	2024
白内障手術	1,101	1,148	1,309	1,296	1,265
網膜硝子体手術	111	117	100	90	146
緑内障手術	19	24	10	7	16
その他	27	43	47	44	45
手術件数	1,258	1,332	1,466	1,437	1,472
硝子体注射	435	490	511	528	532
手術件数(注射を含む)	1,693	1,822	1,977	1,965	2,004

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均 入院患者数	2021	8.2	6.2	8.6	7.9	8.0	9.6	8.8	9.0	8.1	6.0	6.8	8.6	8.0
	2022	6.8	7.2	7.4	7.9	5.4	7.4	7.8	7.8	9.1	6.8	9.3	7.5	7.5
	2023	8.0	5.4	6.1	5.3	5.4	6.2	6.4	8.5	5.7	7.2	5.6	8.5	6.5
	2024	8.2	6.6	9.3	7.7	7.6	6.6	9.2	7.5	6.1	5.5	8.3	8.1	7.6
1日平均 外来患者数	2021	60.6	61.7	55.5	60.9	53.1	66.6	65.7	61.4	67.6	60.5	56.6	67.1	61.5
	2022	69.0	62.2	63.0	63.3	51.1	73.2	74.0	66.7	68.0	64.3	61.9	70.8	65.6
	2023	68.8	66.1	62.4	67.8	55.5	69.6	70.8	67.8	65.6	69.8	66.1	69.5	66.7
	2024	68.9	66.7	66.2	63.6	59.3	71.5	70.2	67.1	70.7	67.9	68.8	75.7	68.1
新入院患者数	2021	95	75	97	83	82	96	101	102	91	78	75	124	91.6
	2022	97	95	123	110	75	108	118	111	110	101	113	120	106.8
	2023	121	102	103	88	75	82	94	101	70	94	80	79	90.8
	2024	92	90	102	122	102	87	106	79	76	78	91	95	93.3
中央手術室に おける 手術件数	2021	160	131	162	146	130	169	164	162	163	122	125	182	151.3
	2022	163	148	188	171	140	177	193	178	182	161	177	187	172.1
	2023	198	155	165	154	143	145	168	180	131	166	161	145	159.3
	2024	163	174	175	203	182	137	183	158	150	144	152	178	166.6

## ▶ 耳鼻咽喉科

### ▶ これからの展開

耳鼻咽喉科の疾患は多岐にわたる。小児は滲出性中耳炎、真珠腫性中耳炎、扁桃肥大、乳幼児の難聴、アレルギー性鼻炎、副鼻腔炎など、成人は慢性副鼻腔炎、慢性扁桃炎、扁桃肥大に伴う睡眠時無呼吸症候群、声帯腫瘍、急性炎症性疾患、顔面神経麻痺、突発性難聴などを中心に、地域の耳鼻咽喉科医院と連携をとりながら診療を行う。また、慢性涙囊炎による涙目に対して内視鏡下鼻腔涙嚢吻合術を眼科と合同で行い症例数を増やしている。嚥下障害の診断を通じて、他科診療を支援する。当科は、医師と聴覚専門の言語聴覚士が全員女性で、0歳から100歳以上の老若男女、子どもや働く保護者への配慮を含め、丁寧な医療を目指している。

### ▶ 得意領域の深化

慢性副鼻腔炎、アレルギー性鼻炎、鼻副鼻腔腫瘍などの鼻内疾患に対する手術は内視鏡下で行われる。内視鏡下で精細な操作が可能となる反面、鼻に隣接する脳や目といった重要な臓器の近傍まで操作が及ぶ。これらの損傷を避けるため、ナビゲーション機器を導入し安全性を高めている。近年増加傾向の好酸球性副鼻腔炎は、重症度に応じて難病指定を行い、併発する気管支喘息に対して呼吸器内科と連携し、手術から生物学的製剤を含めた投薬治療を行う。高気圧酸素治療装置は近隣病院にない設備で、重症の突発性難聴を中心に施行している。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均 入院患者数	2021	3.9	0.7	3.2	3.9	5.1	2.5	2.7	2.5	2.7	1.9	3.8	6.3	3.3
	2022	3.8	5.3	3.5	3.2	4.9	2.4	3.5	3.4	3.1	2.8	3.3	2.7	3.5
	2023	3.7	3.7	4.9	7.2	5.3	4.0	3.9	4.4	5.1	5.0	4.3	4.6	4.7
	2024	3.6	5.4	7.6	5.5	7.0	5.3	5.7	5.9	7.2	7.7	6.1	6.4	6.1
1日平均 外来患者数	2021	31.6	28.1	28.1	30.9	33.9	32.7	30.5	34.5	34.0	29.4	29.2	34.5	31.5
	2022	31.1	33.2	30.1	30.5	34.8	38.3	34.5	34.5	32.5	30.2	35.0	36.7	33.4
	2023	35.1	36.5	36.0	41.5	38.9	36.2	38.2	37.6	36.7	39.9	40.4	40.9	38.2
	2024	40.1	35.9	33.2	34.6	32.9	32.0	34.6	35.4	34.5	38.5	31.8	38.1	35.1
新入院患者数	2021	20	2	19	27	26	17	16	17	12	16	17	28	18.1
	2022	13	28	23	17	26	16	17	17	15	17	19	20	19.0
	2023	15	21	27	32	35	18	23	20	35	28	24	29	25.6
	2024	25	42	42	38	36	36	45	37	28	45	30	40	37.0
中央手術室に おける 手術件数	2021	13	1	10	16	17	14	13	11	7	10	12	19	11.9
	2022	9	11	16	14	19	12	14	12	11	13	9	22	13.5
	2023	7	12	16	19	18	13	11	15	17	17	14	16	14.6
	2024	18	14	19	23	21	20	17	15	13	18	20	20	18.2

## ▶ 泌尿器科

### ▶ これからの展開

今後、腹腔鏡下手術（副腎摘除、腎摘、腎尿管全摘など）も積極的に行いたい。可能であれば、ロボット支援手術を行う体制を整えたいと考えています。

### ▶ 得意領域の深化

泌尿器科全般について外来診療を行い、必要があれば入院で対応を行っている。手術は経尿道的手術（膀胱癌や前立腺肥大、腎・尿管・膀胱結石に対する内視鏡的破碎術）や体外衝撃波結石破碎術、前立腺生検を中心に行っている。抗癌化学療法は前立腺癌、膀胱癌、腎癌など泌尿器科腫瘍に対して行っている。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均 入院患者数	2021	4.7	5.4	6.1	5.8	6.9	4.9	7.3	7.1	4.3	5.0	4.8	6.0	5.7
	2022	4.3	5.2	6.4	7.4	5.9	4.9	6.6	4.9	6.8	8.1	5.4	4.5	5.9
	2023	3.4	6.2	6.0	6.3	9.3	9.5	6.1	5.9	7.0	6.0	4.6	6.1	6.4
	2024	0.9	0.4	0.3	0.7	3.5	5.7	6.2	8.3	4	4.6	7	6.9	4.0
1日平均 外来患者数	2021	21.5	21.0	18.1	20.1	21.2	4.9	7.3	7.1	4.3	5.0	4.8	6.0	11.8
	2022	22.6	23.2	22.6	21.4	23.4	20.1	23.9	23.2	24.6	22.8	24.0	20.3	22.7
	2023	22.0	23.2	19.2	22.3	21.5	21.8	22.2	25.0	23.2	23.7	22.3	22.9	22.4
	2024	22.6	18.6	18.8	18.5	18.7	22.4	24.2	22.9	26.7	27.8	25.2	25.4	22.7
新入院患者数	2021	21	29	34	29	34	30	37	34	29	28	24	36	30.4
	2022	25	28	24	33	38	31	27	31	35	35	21	22	29.2
	2023	19	33	30	19	33	29	24	31	38	32	24	21	27.8
	2024	9	3	2	7	17	24	27	31	18	24	24	19	17.1
中央手術室に おける 手術件数	2021	15	23	23	28	18	20	25	22	18	19	16	21	20.7
	2022	18	17	17	27	19	22	18	17	24	22	15	15	19.6
	2023	11	14	22	9	18	21	16	16	21	19	15	12	16.2
	2024	1	0	1	0	7	11	17	16	11	12	10	7	7.8

## ▶ 産婦人科

### ▶ これからの展開

産婦人科ほど多岐に渡る診療を行っている診療科はないと言える。出産に始まり、さらに思春期のヘルスケア、妊娠分娩、成熟期の疾患(子宮筋腫、子宮内膜症、卵巣嚢胞)の治療、更年期のヘルスケア、がん治療、老年期の疾患といった女性の一生の健康管理ができる医療を、常に高い水準で目指し、女性の健康を保つ上で良きパートナーでありたいと考える。そのために、得意とする腹腔鏡、ロボット手術などの低侵襲手術を伸ばすとともに、常に最新の知見や技術をアップデートしていきたい。また少子化の時代にあった周産期の対応を常に模索している。学会、論文発表を積極的に行い、近隣の市民の皆様、医療関係者に対し情報発信をおこない一層地域に根ざした中核病院となることを構想していく。2026年度より新たに日本産婦人科学会基幹研修施設となり医師教育にもさらに力を入れる。

### ▶ 得意領域の深化

当院は、兵庫県より地域周産期協力病院に指定され地域の周産期ネットワークの一翼を担っている。NICUが無いため妊娠35週以降の取り扱いであるが、近隣のクリニックの重症症例の紹介を受ける。一方で、当院通院中の妊婦の妊娠35週以前の有病時には、このネットワークを生かして高次の周産期医療機関と連携を行う。従来より医師のスキルアップには力をいれており、当科は産婦人科のサブスペシャリティである周産期専門医、婦人科腫瘍専門医、女性医学専門医および腹腔鏡技術認定医、ロボット手術技術認定医の修練施設である。個々の医師が修練することで全体のレベルアップを計っている。これらの技術を複合した悪性腫瘍の低侵襲手術を得意領域としており(子宮体癌のロボット手術施行は神戸市内3病院のみ)広く近隣から紹介を得ている。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均 入院患者数	2021	12.5	9.2	8.5	10.1	10.9	10.6	14.0	13.3	9.1	8.5	9.2	10.8	10.6
	2022	8.7	9.4	7.2	7.7	9.4	7.2	9.4	9.7	8.7	7.2	9.3	10.4	8.7
	2023	8.3	9.0	10.6	9.8	11.5	9.5	12.1	10.4	10.7	9.5	8.1	7.7	9.8
	2024	9.0	6.9	6.9	6.8	9.6	12.7	8.2	12.1	11.8	9.8	10.6	9.2	9.4
1日平均 外来患者数	2021	22.8	26.1	23.7	23.4	23.6	27.7	29.0	30.2	29.0	24.4	25.4	29.4	26.2
	2022	24.4	26.4	24.9	22.6	23.5	27.1	26.4	27.8	29.7	27.5	26.6	28.0	26.2
	2023	25.7	25.1	26.6	26.0	24.0	26.5	29.9	27.3	26.0	26.1	24.6	27.0	26.2
	2024	22.9	23.7	26.1	23.8	22.0	26.3	29.5	27.3	26.0	27.6	26.9	28.6	25.9
新入院患者数	2021	56	46	39	44	52	49	65	62	43	47	42	47	49.3
	2022	38	51	35	38	46	41	37	43	43	40	34	49	41.3
	2023	40	53	54	56	67	44	66	48	53	50	37	44	51.0
	2024	48	38	38	51	41	64	52	62	51	49	47	51	49.3
中央手術室に おける 手術件数	2021	32	29	27	22	32	30	37	42	36	31	24	33	31.3
	2022	27	35	24	22	32	26	22	28	31	22	23	33	27.1
	2023	28	25	31	30	40	28	37	24	28	30	22	25	29.0
	2024	28	22	23	25	27	29	38	38	33	36	26	26	29.3

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
分娩数	2021	16	7	10	14	10	11	20	12	9	9	11	10	139
	2022	8	14	9	12	17	12	12	8	14	14	5	16	141
	2023	10	15	15	14	10	14	18	13	21	13	5	9	157
	2024	8	6	7	11	9	18	11	13	13	6	7	10	119

## ▶ 形成外科

### ▶ これからの展開

形成外科の常勤スタッフは3名から2名に減りましたが、診療規模も2/3にならないように可能な範囲で対応する。外傷や腫瘍切除後の欠損、リンパ浮腫治療に対するマイクロサージャリーを用いた再建を増やしていきたい。

### ▶ 得意領域の深化

- 1) 外傷  
顔面骨骨折、切断指の治療
- 2) 眼形成外科  
眼瞼下垂症をはじめとする瞼(まぶた)の疾患
- 3) 再建  
皮膚軟部組織欠損に対する再建、乳腺外科と連携して乳房再建

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均 入院患者数	2021	9.6	11.3	11.4	9.4	11.2	9.4	9.9	9.2	10.2	8.5	6.1	8.3	9.6
	2022	7.9	8.5	11.5	11.9	8.9	7.1	9.3	10.0	10.5	7.8	10.1	6.3	9.1
	2023	8.1	10.3	10.9	13.1	10.0	9.7	9.3	6.6	4.9	6.4	6.6	8.3	8.7
	2024	9	6.9	6.9	6.8	9.6	12.7	8.2	12.1	11.8	9.8	10.6	9.2	9.5
1日平均 外来患者数	2021	16.2	14.6	17.4	18.3	19.5	15.1	19.0	18.1	20.1	18.7	15.9	19.0	17.7
	2022	18.5	19.0	15.4	17.9	16.4	18.6	14.8	19.0	18.4	15.4	15.4	16.2	17.1
	2023	15.9	16.8	17.5	16.4	17.4	16.1	13.7	12.9	16.6	16.4	17.4	17.1	16.2
	2024	22.9	23.7	26.1	23.8	22.0	26.3	29.5	27.3	26.0	27.6	26.9	28.6	25.9
新入院患者数	2021	10	14	18	12	22	14	20	17	9	17	12	29	16.2
	2022	6	17	18	18	16	15	11	14	17	20	14	12	14.8
	2023	10	17	23	17	21	14	17	13	11	20	10	14	15.6
	2024	12	19	12	28	19	13	23	15	17	8	19	19	17.0
中央手術室に おける 手術件数	2021	28	25	23	25	35	29	25	32	26	20	26	43	28.1
	2022	23	29	27	25	47	33	22	29	34	35	25	28	29.8
	2023	24	33	43	32	38	28	28	27	23	21	28	34	29.9
	2024	31	27	20	31	28	31	31	30	26	25	28	25	27.8

## ▶ 歯科口腔外科

### ▶ これからの展開

口腔外科疾患全般に対して質の高い医療を提供できるよう研鑽を積み、紹介元医療機関より信頼され、地域に必要不可欠な歯科口腔外科となるよう努力していきたい。また、院内においても、全身麻酔手術、がん化学療法、集中治療室における治療、緩和ケアを受ける患者などに対して、対象診療科のご理解とご協力のもと、積極的に介入(周術期口腔機能管理)し、口腔内を清潔にして食べる機能を回復することで、術後肺炎などの合併症の予防や治療成績の向上に貢献したい。

### ▶ 得意領域の深化

当科では、患者がストレスなく安心して抜歯できる体制を整えている。親知らず(智歯)が深い位置に埋伏している場合や、抜歯に対する恐怖心の強い患者に対し、入院(2泊3日)のうえ全身麻酔下での抜歯を行っている。2024年の全麻下抜歯症例数は221例と当科の入院症例の7割を占めており、得意領域となっている。2024年11月より全麻手術枠が週1.5枠から2枠に増加したため、2025年は全麻下の抜歯症例数が増加する見込みである。

また、2024年4月に周術期口腔ケア室を開設していただき、専用の診療ユニットで歯科衛生士が活動できたことにより、昨年は周術期口腔機能管理実施症例数を大幅に増加することができた(2023年:343例、2024年:956例)。2025年4月より歯科衛生士を1名増員していただいたので、診療ユニットとマンパワーの拡充により、さらに周術期口腔機能管理実施症例数を増加できると考えている。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均入院患者数	2021	1.3	1.3	1.4	1.6	1.5	1.6	1.6	1.8	1.3	1.3	2.4	2.0	1.6
	2022	1.5	1.7	2.2	2.9	1.7	1.2	1.3	1.4	1.0	1.2	1.7	1.7	1.6
	2023	1.9	1.7	1.8	2.0	1.7	1.1	2.3	1.8	1.8	1.6	1.5	1.5	1.7
	2024	1.8	1.7	1.9	1.8	1.8	2.0	2.1	2.0	3.3	3.2	2.1	2.6	2.2
1日平均外来患者数	2021	29.4	31.3	28.0	33.9	32.6	33.3	34.8	35.2	36.4	34.1	36.9	40.1	33.8
	2022	37.6	38.4	37.7	37.6	37.4	37.3	40.2	41.8	41.1	37.1	41.2	43.6	39.2
	2023	38.0	40.4	40.6	38.3	38.5	37.1	38.8	35.6	41.2	37.5	40.6	41.4	39.0
	2024	43.5	42.1	46.4	45.8	46.0	46.6	47.9	47.0	50.0	46.1	49.4	46.5	46.4
新入院患者数	2021	20	17	21	21	23	21	24	26	20	23	22	25	21.9
	2022	20	25	26	29	26	19	20	22	17	21	28	24	23.1
	2023	26	27	28	31	31	18	32	26	25	24	22	24	26.2
	2024	28	24	25	29	24	29	30	29	36	35	32	39	30.0
中央手術室における手術件数	2021	17	15	20	20	19	19	19	19	19	17	15	19	18.2
	2022	17	15	22	17	23	16	18	20	14	14	20	21	18.1
	2023	20	21	21	21	22	16	21	21	21	18	18	18	19.8
	2024	20	21	22	26	22	23	26	27	29	27	27	35	25.4

## ▶ 麻酔科

### ▶ これからの展開

2024年度は年度途中で人員の減員はあったが、麻酔科管理症例は前年度より増加させることができた。今後も手術部とも協力して、空き枠の有効利用等をアナウンスしてより円滑な手術室運用を目指していきたいと考えている。術後疼痛管理チームの活動も軌道にのり、疼痛評価を安定して行えている。術後疼痛だけでなく、鎮痛管理のスキルを他診療科とも協力して診療に生かしていきたい。

### ▶ 得意領域の深化

麻酔科医の役割の一つとして周術期全身管理がある。ICUなどにおける術後全身管理について、より関与していきたいと考える。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
全身麻酔 件数	2021	203	189	218	218	238	210	239	241	218	211	188	273	220.5
	2022	212	220	224	201	250	214	224	236	242	244	226	265	229.8
	2023	183	220	230	208	259	206	226	227	208	217	216	215	217.9
	2024	216	199	173	235	250	234	257	257	267	260	244	249	236.8

## ▶ 救急科

### ▶ これからの展開

救急外来は初療室4(うち感染対策兼用2)・感染対策用室2・一般診察室2、点滴室6も合わせると14床で運用している。ベッド数は多いが、対応する医師・看護師数が見合っていなかった。しかし、2023年に救急専門医2名が常勤となり、当科スタッフが3名になり、救急対応能力が上昇。結果、2023年・2024年度は救急車搬送数だけでも7000件を超えている。2025年4月、スタッフ2・臨床研修医3-4の基本体制で対応。専門性の高い疾患については各科オンコールの先生に診察頂き、平日日中の救急応需はほとんどの症例で対応可能となっているが、救急患者が集中して来院すると対応に苦慮する場合がある。週3回各1名の非常勤医師(救急専門医)で増員を図っているが、今後は、救急科専任の常勤医師をさらに増員し、より多くの救急患者を救急科での入院を含め対応できるよう尽力する。ただし、医師が増えても看護スタッフが少なければ対応はできないため、看護師の増員も急務である。

### ▶ 得意領域の深化

救急科はスタッフ3・臨床研修医3-4で診療にあたっている。他科には、救急担当者が各日決まっており、受診した患者の診察結果に基づき、該当する科の救急担当者に連絡して診察を依頼している。全科が協力して救急患者に対応していることで、多様な疾患・多数の患者様の受け入れを可能としている。症例数が多く2次救急疾患のほとんどを扱い、さらに複数患者を同時診察するケースが多く、優先度・安全性を判断しつつの診察となる。こうした『限られた時間内での診断力』も養えるよう実症例・講義を通して指導・教育している。救急専門医が常勤・非常勤で救急対応しており、現場での直接的な指導を行うことで、救急で診察する各科専攻医や研修医が、専門的な救急診療に関する知識を学習でき、より高度な救急対応ができることを目標としている。救急科スタッフのうち1名がICU専任で勤務しており、救急現場は-1とはなるが、重症例をICUで管理できることで、これまで応需困難であった、より高度な救急症例に対応可能となった。また夜間休日のICUオンコールも救急科専門医が担当しており、夜間休日の重症症例の応需を可能にしている。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
救急搬送患者数	2021	434	395	411	442	368	456	413	422	433	385	391	409	4,959
	2022	462	467	419	491	455	522	485	503	701	557	510	532	6,104
	2023	549	593	566	674	687	539	586	578	595	615	565	604	7,151
	2024	533	589	559	699	609	567	502	575	706	626	513	556	7,034
救急ウォークイン患者数	2021	610	635	588	709	659	566	521	529	590	616	523	506	7,052
	2022	542	615	450	722	630	613	554	511	588	562	431	445	6,663
	2023	512	689	564	671	662	517	522	540	539	558	460	457	6,691
	2024	431	523	451	551	527	449	487	421	567	490	380	402	5,679
合計	2021	1,044	1,030	999	1,151	1,027	1,022	934	951	1,023	1,001	914	915	12,011
	2022	1,004	1,082	869	1,213	1,085	1,135	1,039	1,014	1,289	1,119	941	977	12,767
	2023	1,061	1,282	1,130	1,345	1,349	1,056	1,108	1,118	1,134	1,173	1,025	1,061	13,842
	2024	964	1,112	1,010	1,250	1,136	1,016	989	996	1,273	1,116	893	958	12,713

## 2. 六甲アイランド甲南病院

### 基本方針

- 患者様の人格と意思を尊重し、全人的医療を目指します。
- いつも安心と満足を提供できる病院を目指します。
- 良質の医療を提供するために、健全な経営を目指します。
- 専門職としての誇りを持ち、やり甲斐ある職場をつくります。

### 院長挨拶



三枝 康宏 院長

六甲アイランド甲南病院では、現在回復期リハビリテーション病棟と、地域包括ケア病棟を運営しています。回復期リハビリテーション病棟は、脳血管障害、骨折、股関節や膝関節の人工関節手術後の患者様に、リハビリテーション医療を集中的に提供する病棟です。2020年には、病棟およびリハビリテーションルームを開放的な明るい空間に改修し、ADL訓練を主としたスペースと電動昇降式のキッチンや浴室訓練等の設備を揃え、退院後の患者様個々に合わせたリハビリテーションが行えるようにしています。

また、病棟内にもリハビリルームを設置しており、リハビリ技士による治療・訓練だけでなく、患者様自身も退院に向けたトレーニングがいつでも行える環境を整備しています。地域包括ケア病棟は、地域の患者様で高度な医療は必要ないが、在宅での治療が困難な方へ入院医療を提供する病棟で、主として地域の先生方からの紹介患者を受け入れています。

さらに、急性期の治療は終了したが、回復期リハビリテーション病棟の入院の適応にはならない患者様も受け入れています。一般病床も一部存続しますので、地域の皆様の急性期医療の一翼を担えるものと考えています。特に、人生100年時代を想定した心臓リハビリテーションを積極的に行っています。

2020年4月に、一般財団法人甲南会は公益財団法人となり、より公益性が求められるようになりました。甲南医療センター共々、地域の皆様の健康と福祉に貢献する所存でありますので、今後とも皆様のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

### 特色

六甲アイランド甲南病院は、神戸市東灘区の六甲アイランド内にあり、主に回復期の患者様を中心とした病院として、地域の医療機関からの紹介を積極的に受け入れ、地域の方々の生命と健康を守るための医療を実践しております。

当院では、回復期リハビリテーション病棟、地域包括ケア病棟、一般病棟を有しており、特にリハビリテーションの特徴として、患者様個々の病態に応じた、安全かつ効果的な治療計画が提供できるよう努めております。

理念として「人類愛の精神に基づき、病める人のためにつくします」を謳い、職員がいつも笑顔と挨拶を絶やさず、医療知識と技術の研鑽を積み、信頼される安全な療養環境が提供できるように努めています。

公益財団法人甲南会のグループ病院として、甲南医療センターや甲南介護老人保健施設、甲南訪問看護ステーション、地域の関係機関等と連携して、患者が出来るだけ早く在宅で自立復帰ができるよう、医療と介護の支援に取り組んでいきます。

### 沿革

1992年(平成4)	4月1日、六甲アイランド病院開院(307床)
1995年(平成7)	阪神・淡路大震災で被災
2004年(平成16)	医師臨床研修病院指定
2006年(平成18)	病院機能評価(Ver.4)認定
2008年(平成20)	DPC適用病院となる
2009年(平成21)	健診センターを開設
2010年(平成22)	病院機能評価(Ver.6)受審
2012年(平成24)	電子カルテを導入
2019年(平成31)	10月、甲南会の病院再編統合事業により、一般病棟34床、地域包括ケア病棟104床、回復期リハビリテーション病棟60床と再編され、198床へ

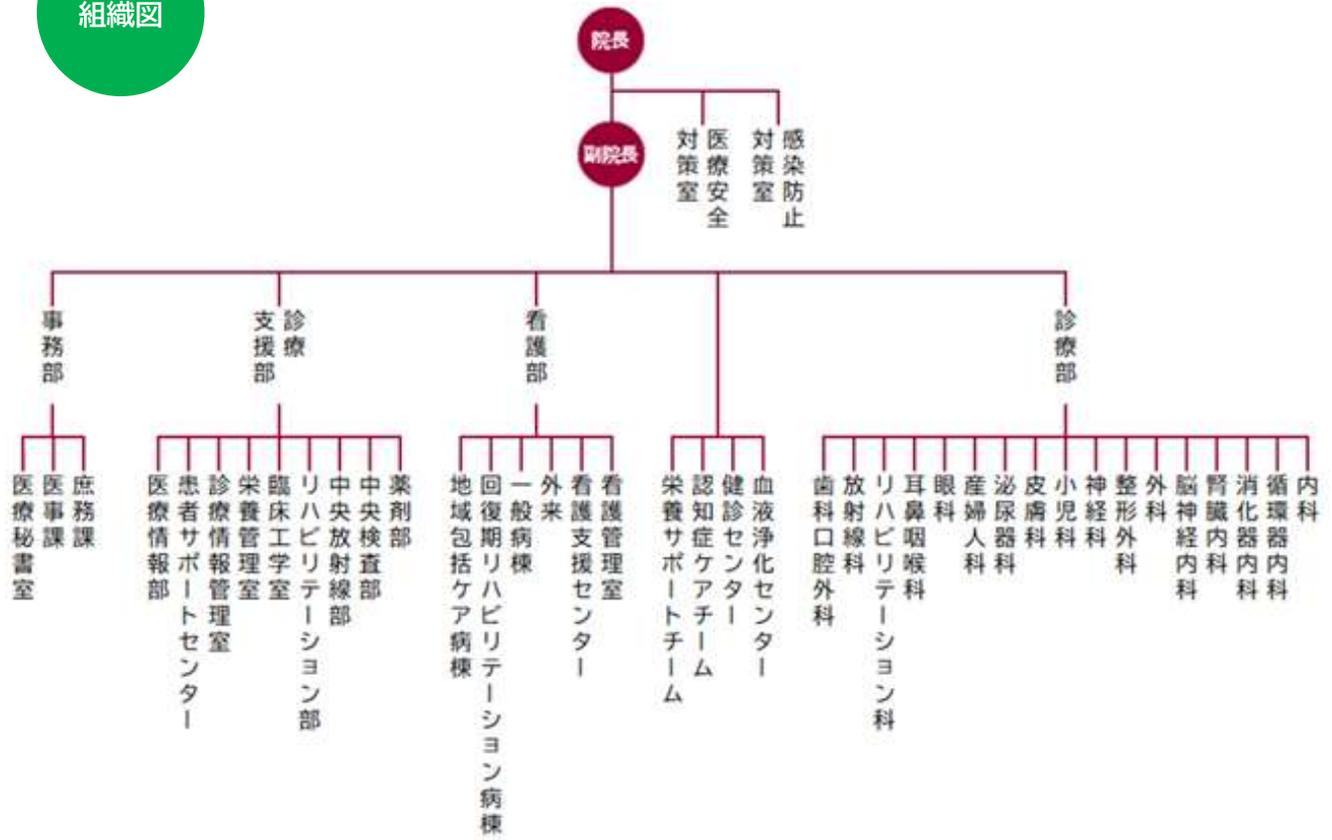
# 概要

- 所在地 神戸市東灘区向洋町中2-11
- TEL 078-858-1111
- 創立 1992年4月1日
- 土地面積 4,967㎡
- 建物 地下1階地上13階 延20,974㎡
- 病床数 198床(一般病棟34床、地域包括ケア病棟104床、回復期リハビリテーション病棟60床)
- 職員数 医師14名、看護部門185名、診療技術部門119名  
事務部門20名 計338名(2025年3月31日現在)
- 診療科目 内科/循環器内科/消化器内科/腎臓内科/脳神経内科/  
外科/整形外科/神経科/小児科/皮膚科/泌尿器科/  
産婦人科/眼科/耳鼻咽喉科/リハビリテーション科/  
放射線科/歯科口腔外科/血液浄化センター/健診センター
- 外来診療 受付時間：8時30分～11時30分  
診療時間：9時00分～17時00分
- 入院基本料施設基準 急性期一般入院料VI / 地域包括ケア病棟入院料I /  
回復期リハビリテーション病棟入院料I
- 救急告示 有

## ▶ 診療実績

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均 入院 患者数	2020	171	176	174	158	172	178	173	163	180	187	184	184	175
	2021	187	184	177	175	188	170	177	189	184	186	170	158	179
	2022	155	152	156	157	154	145	150	155	160	159	155	156	155
	2023	156	160	170	171	173	172	173	167	172	186	185	187	173
	2024	184	186	164	174	185	178	179	179	176	179	189	191	180
1日平均 外来 患者数	2020	279	308	329	360	357	355	367	374	364	345	357	333	344
	2021	327	348	320	354	329	340	334	353	352	331	332	322	337
	2022	308	314	281	300	289	315	295	296	304	284	288	290	297
	2023	278	287	277	279	261	288	282	283	282	282	277	282	280
	2024	253	246	258	244	254	263	248	254	270	257	254	255	255
新入院 患者数	2020	154	128	160	153	161	155	135	145	149	134	114	162	146
	2021	142	129	126	156	138	121	166	129	169	141	87	123	136
	2022	117	124	127	133	112	127	119	137	156	110	114	120	125
	2023	105	125	122	131	141	130	125	134	139	138	122	123	128
	2024	141	126	122	134	144	125	141	132	140	126	132	145	134
1日平均 健診センター 受診者数	2020	3	4	14	17	16	18	23	26	16	15	17	12	15
	2021	12	13	16	17	16	17	23	26	21	15	19	18	18
	2022	10	18	15	19	15	19	22	32	19	18	20	18	19
	2023	11	18	19	18	16	20	19	33	19	18	17	15	19
	2024	16	19	19	20	21	22	22	22	20	21	24	20	21

組織図



## 4. 甲南介護老人保健施設

### 基本方針

- 利用者様の人としての尊厳と権利を守ります。
- 利用者様が安心して心豊かに暮らせる施設を目指します。
- 利用者様の生活機能の維持向上に努めます。
- 地域連携を通し、利用者様が住み慣れた居宅への復帰を目指します。

### 施設長挨拶



宮下 勝 施設長

高齢者では複数の疾病を抱える人が多くなり、日常生活に関連した機能が低下するため、個々の疾病に対処するだけでなく、全身の臓器機能やADLに代表される身体機能、あるいは心のケアを含めさらに社会環境の整備までに及ぶ広い視点が必要と考えます。人生の豊かな経験を持つ高齢者の方々に、一人ひとりのNarrativeを大切に、尊重する姿勢で耳を傾け、心に接する介護やケアを行わんと努力しております。今まで創設以来積み上げてきた「高齢者のため、安心して心豊かに暮らせる施設」を、職員全員が暖かな気持ちで高齢者の人々を包み込み、さらに前進して参ります。

### 特色

「人間としての尊厳・権利を守り、各個人の価値観や日常習慣などを尊重し、その人の立場にたった優しさと温もりのある看護・介護を提供し、一人ひとりの心に届くケアを行う」と理念に掲げ、安心して心豊かに暮らせる施設を目指しています。

また、生活に希望と喜びを感じ、自分らしい暮らし方を続けられるように在宅復帰超強化型施設として、機能維持・改善の支援を行います。

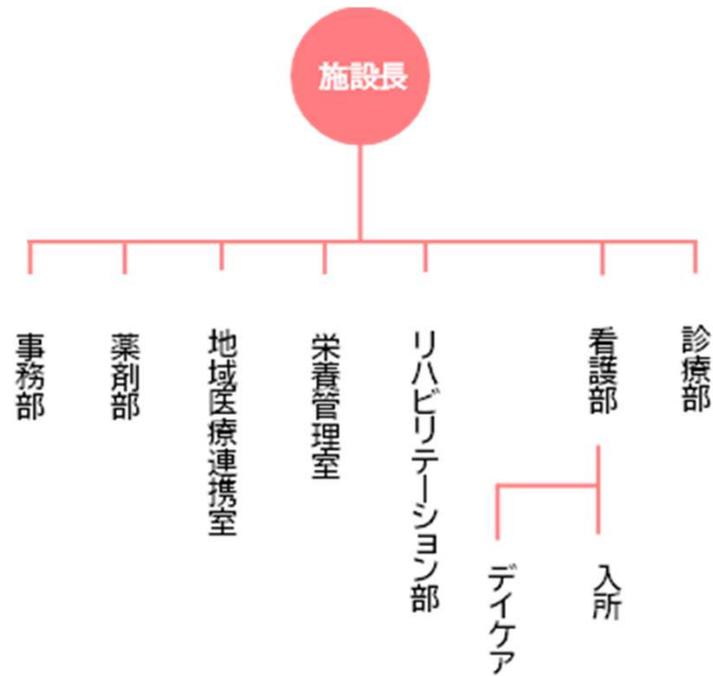
高齢者のリハビリテーションは、日常の生活動作能力を維持することが大きな目標となります。ベッドからの寝起き・更衣・トイレ動作などの生活をしていく上で必要な動作習得に向けて、リハビリ専門職と一定の時間・場所での訓練に限らず、実際の生活場面での練習をしていきます。

さらに、在宅復帰の実現に向けては、家庭を訪問し課題を積極的に解決していきます。

### 概要

- 所在地 神戸市東灘区向洋町中3-2-5
- TEL 078-858-1180
- 創立 2001年11月1日
- 定員 入所80名/通所30名
- 室数 療養室80床(個室4室、2床室2室、4床室18室)
- 建物 地下1階地上3階 延4,024㎡
- 職員数 医師1名、薬剤師1名、看護師9名、准看護師1名、介護福祉士29名、リハビリ専門職7名、介護支援専門員2名、社会福祉士3名、看護助手7名、管理栄養士1名、事務4名  
計65名(2025年3月31日現在)

組織図



業績実績

項目	2020	2021	2022	2023	2024
入所者数(1日平均)	77.0	76.7	66.3	72.0	72.5
通所者数(1日平均)	23.9	23.9	20.0	16.9	21.1
在宅復帰率	67.3	57.6	54.9	52.3	56.3
回転率	13.7	13.4	11.9	12.1	13.9



## 5. 甲南訪問看護ステーション

### 基本方針

- 利用者様がご自宅で自立した日常生活を送れるように支援します。
- 利用者様の権利を尊重し、利用者様との信頼関係を大切にします。
- 主治医との連携を取り利用者様が期待する、明るく・あたたかで、安心な看護サービスに努めます。
- 必要時に行政機関・福祉サービス事業者等と連絡を取り、利用者様の療養に必要な良質なサービスが提供できるよう努めます。

### 所長挨拶

地域包括ケアシステムの充実に向けて訪問看護への期待が高まる中、新型コロナウイルス感染症の流行で、病院や施設の面会制限により在宅療養を希望される方が増えています。訪問看護は、在宅療養の不安や苦痛を解消し「住み慣れた地域で暮らしたい」をお手伝いします。利用者様の意思決定を支える為に、ご家族、訪問医、ケアマネージャー、介護事業所、近隣の方々とも共同します。

### 特色

当ステーションは、甲南医療センターや六甲アイランド甲南病院、甲南介護老人保健施設と同グループで協力連携が図りやすい点が特徴です。

サービス内容は、病状の観察、薬剤管理、医療機器の管理、創傷処置などの医療的処置を加え、日常生活の相談や指導、精神的な支援、終末期看護などを行っています。

### 概要

- 所在地 神戸市東灘区向洋町中2-11
- TEL 078-854-1156
- 創立 2001年10月1日
- 活動地域 神戸市東灘区・灘区・芦屋
- 営業日 月～金(土日祝、年末年始は休み) 8時30分～17時15分
- 職員数 看護師9名、理学療法士3名、事務1名  
合計13名(2025年3月31日現在)

### 業績実績

項目	2020	2021	2022	2023	2024
訪問件数	642	722	829	706	707

## 6. 甲南居宅介護支援事業所

### 特色

在宅での生活や療養・介護に関して不安をもたれている皆さまが、安心して生活できるようにお手伝いします。

介護が必要になったとき、どんな方法があるか一緒に考え、歩んでいけるよう、利用者のご家族の思いを大切に、意向に沿ったサービス提供を心がけています。

在宅介護に関することなど、何なりとお気軽に電話で相談いただき、私たちケアマネジャーにお任せください。

当事業所の担当エリアは六甲アイランドを中心とした東灘区です。

### 概要

- 所在地 神戸市東灘区向洋町中3-2-5
- TEL 078-858-1257
- 創立 2001年11月15日
- 活動地域 六甲アイランドを中心とした神戸市東灘区
- 営業日 月～金(土日祝、年末年始は休み) 8時30分～17時15分
- 職員数 介護支援専門員3名 (2025年3月31日現在)

### 業績実績

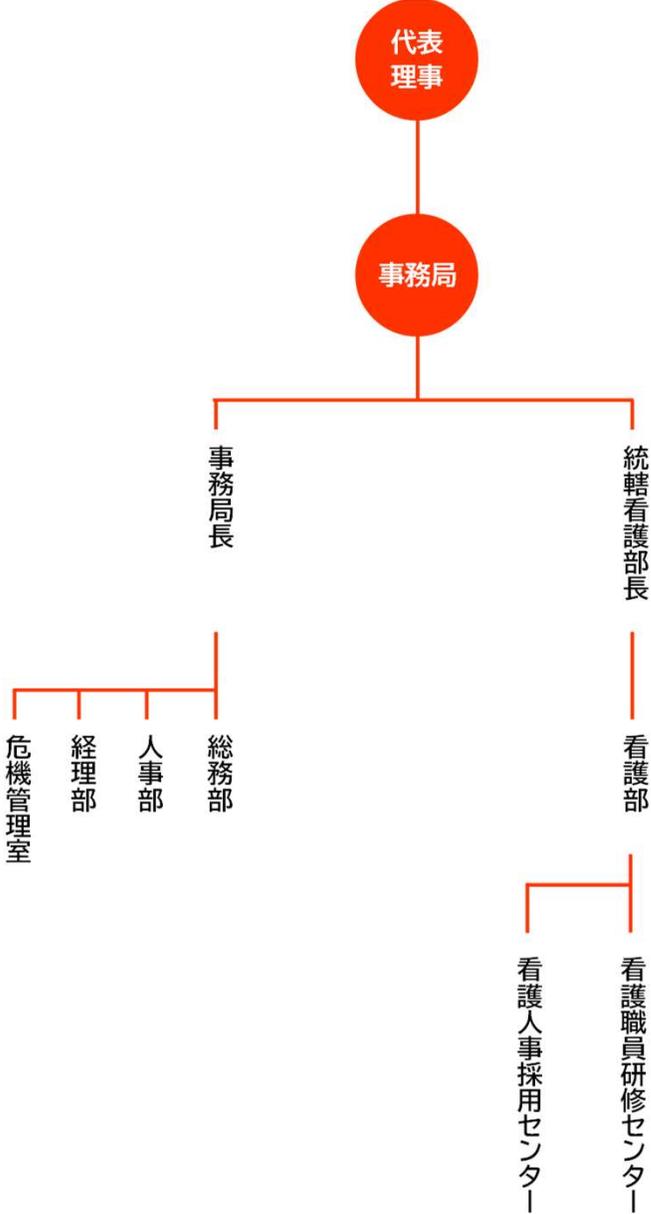
項目	2020	2021	2022	2023	2024
居宅支援件数	96	96	117	91	80

## 7. 事務局

### 概要

- 所在地 神戸市東灘区鴨子ヶ原1-5-16 甲南医療センター管理棟4階
- TEL 078-854-4072
- 職員数 事務19名、看護師3名 計22名(2025年3月31日現在)

### 組織図



# 第3. 事業の概要

## 1. 公益目的事業の概要

### (1) 地域医療を支援する事業

#### ア 地域医療機関を支援する取り組み

地域で必要な医療を確保するため、地域医療機関を支援すると共に連携を図り、医療機関の機能に応じた役割分担により、地域内で患者に予防・診療・在宅まで一貫した医療を供給できる体制を構築し、地域医療全体の医療の質の向上を図る。

#### (ア) 患者の紹介を通じた近隣医療機関との連携

甲南会では、かかりつけ医との連携を密にし、積極的にかかりつけ医からの紹介患者を受け入れ、また入院加療が終わった患者をかかりつけ医に戻し、病状に応じて患者が最適な医療機関で診察を受けることが出来るよう努める。

#### (イ) 病床、医療機器、設備等の地域の医師等への開放

かかりつけ医に病床や医療機器、設備を利用提供し、甲南会の主治医と共同診療することにより、首尾一貫した良質で効率的な医療を提供できる体制を構築し、地域医療の向上を図る。利用を希望するかかりつけ医は、甲南会の登録医として登録し、必要な時に利用することができる。

#### (a) 共同診療

かかりつけ医から紹介された患者を開放病床で受け入れ、かかりつけ医と甲南会の担当医師が共同で診療を行う。かかりつけ医は、手術・検査に立ち会うこともできる。かかりつけ医が入院中の患者の診療を行うことで、入院中の治療内容や検査結果を知ることができ、退院後もかかりつけ医のもとで、安心して一貫した外来診療を受けることができる。

##### ◎開放病床

甲南医療センター	5床
六甲アイランド甲南病院	5床

##### ◎利用可能医療機器

PET-CT、CT、MRI、RI、単純レントゲン、内視鏡カメラ、心電図、超音波検査、脳波検査、神経伝達速度 等

#### 【月別PET-CT、CT、MRI予約件数】

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2023	142	117	157	145	140	135	135	135	154	141	118	131	1,650
2024	149	155	144	186	138	129	174	169	164	142	132	154	1,836

#### (b) 他開放施設・サービス

◎研修会等への参加：甲南会主催の学術講習会、カンファレンス、研修会

#### (c) 登録医数

2025.3.31現在 318医療機関、403名の医師(東灘区、灘区、中央区、須磨区、芦屋市、西宮市等) ※今後も登録医参加医療機関の増加をめざす。

## (ウ)医療従事者に対する研修の実施

地域医療機関の従事者に対して、研修を実施し、医療技能専門職知識の習得を通じ医療従事者個々の医療技能向上及び地域医療全体の医療の質の向上を図る。

3	第9回地域連携カンファレンス 「血球増加・減少への対応～アセスメントから最新治療まで～」	甲南医療センター 座長:院長代行 高尾 信太郎 (乳腺外科) 講師:診療部長 下山 学 (腫瘍・血液内科)	7月18日	WEB開催	22名(医師)
4	第6回看護師のためのオンラインセミナー 「在宅でのHFNCの仕組みと管理」	甲南医療センター クリティカルケア認定看護師 主任 安岡 裕美	7月25日	WEB開催	18名(看護師)
5	第4回甲南地域支援ネットワーク 「施設と病院のよりよい連携を目指して」	甲南医療センター 患者サポートセンターMSW	8月1日	WEB開催	41名(病院地域連携室、 あんしんすこやかセンター、 訪問看護ステーション、 居宅介護支援事業所など)
6	第21回神戸市認知症疾患医療センター合同研修会 「～2025年問題 となりの隣も認知症の社会をどう生きる?～」	外部講師:佐藤真一 先生 外部講師:ニコ・ニコルソン 先生	8月24日	神戸市立中央区文化センター1F多目的ホール	62名(医療関係者、 福祉介護関係者など)
7	第2回甲南医療センター地域連携懇話会 「特別講演①:ネットワークで目指す消化器領域の最新医療 特別講演②:地域とともに歩む消化管外科の最前線」	神戸大学病院医学部附属病院 座長:肝胆膵外科 福本 巧 教授 講師:消化器内科 児玉裕三 教授 講師:食道医長外科 掛地吉弘 教授	9月14日	神戸ベイシエラトン	170名(地域の医療従事者)
8	第7回看護師のためのオンラインセミナー 「在宅におけるCVPやPICCの管理」	六甲アイランド甲南病院 感染管理認定看護師 師長 松本 悠子	9月19日	WEB開催	23名(看護師)
9	第10回地域連携カンファレンス 「肺MAC症の診断と最新の治療について」	甲南医療センター 座長:部長 中田 恭介 (呼吸器内科) 演者:医長 関谷 怜奈 (呼吸器内科)	10月10日	WEB開催	26名(医師)
10	第8回看護師のためのオンラインセミナー 「抗がん剤の曝露対策」	甲南医療センター がん化学療法看護認定看護師 主任 門野 志保 主任 板井 真希	10月31日	WEB開催	13名(看護師)

No.	研修内容	担当	開催日	開催場所	人数(参加対象)
11	第5回甲南地域支援ネットワーク 「アルコール依存症が疑われる方への支援について」	甲南医療センター 患者サポートセンターMSW	11月13日	WEB開催	36名(病院地域連携室、 あんしんすこやかセンター、 訪問看護ステーション、 居宅介護支援事業所など)
12	第9回看護師のためのオンラインセミナー 「在宅でも出来る、創傷(褥瘡)アセスメントのポイント」	六甲アイランド甲南 皮膚・排泄ケア特定・認定看護師 師長 松尾 知子	11月21日	WEB開催	23名(看護師)
13	第11回地域連携カンファレンス 「2型糖尿病の薬物療法について～病態に応じた薬剤選択～」	甲南医療センター 座長:院長代行 山田 浩幸(糖内総) 演者:部長 肥後 里実(糖内総)	11月28日	WEB開催	14名(医師)
14	第10回看護師のためのオンラインセミナー 「認知症ケア:コミュニケーションのポイントを押さえて信頼関係を築こう」	六甲アイランド甲南病院 認知症看護認定看護師 師長 別府 恵子	2025年 1月23日	WEB開催	38名(看護師)
15	第5回 東神戸循環器症例カンファレンス	循環器内科 診療部長 大久保 英明 脳神経外科 診療部長 本岡 康彦 循環器内科 部長 下川 泰史	1月30日	甲南医療センター WEB開催のハイブリッド開催	16名(医師)
16	腹膜透析地域連携学習会～在宅へつなぐ～	甲南医療センター 副院長 腎臓内科 藤森 彰 腎臓内科 部長 岡田志緒子 血液浄化センター 師長 中田裕子	1月31日	甲南医療センター WEB開催	19名(訪問看護師等)
17	第12回地域連携カンファレンス 「心不全発症予防のための、当院での新たな取り組み」	甲南医療センター 座長:診療部長 大久保 英明(循環器内科) 演者:医長 小田島 進(循環器内科)	2月13日	WEB開催	16名(医師)
18	第6回甲南地域支援ネットワーク 「高齢者とペットの暮らしを支えるために」	甲南医療センター 患者サポートセンターMSW	3月13日	WEB開催	54名(病院地域連携室、 あんしんすこやかセンター、 訪問看護ステーション、 居宅介護支援事業所など)
19	甲南PD連絡会 1)よくある腹膜透析関連のトラブル 2)合併症発症時の対応 3)事例検討会	甲南医療センター 副院長 腎臓内科 藤森彰 血液浄化センター 看護師 吉田 早百合	3月22日	甲南医療センター	13名(訪問看護師等)

## (エ) 学生に対する研修・実習生の受入

### (a) 実習生の受入

神戸大学医学部から将来の医師を目指す実習生として、医療現場で受け入れて実践研修を行う。

#### 【2024年度医学生受入実績】

- ・神戸大学医学部医学科6年次「臨床実習2」 9名
- ・神戸大学医学部医学科6年次「臨床実習3」 24名
- ・神戸大学医学部医学科BSL年次関連病院実習 42名

## (b)講師派遣

甲南会の医療専門職を医療系大学での授業、講演会での講師として派遣し、各大学における医療職の養成を支援する。

### 【2024年度派遣実績：診療部(医師)】

No.	派遣先	派遣内容	開催日	派遣職員
1	国立大学法人神戸大学	神戸大学医学部保健学科非常勤講師	2024年4月1日 ～6月30日	集中治療部 部長 竹田 洋樹
2	神戸大学医学部附属病院	院内移植コーディネーター連絡会議 出席	4月1日～ 2025年3月31日	救急科 集中治療部 部長 竹田 洋樹
3	国立大学法人神戸大学大学院 医学研究科	神戸大学大学院医学研究科非常勤講師	4月1日～ 2025年3月31日	消化器外科 診療部長 後藤 直大
4	国立大学法人神戸大学医学部	神戸大学医学部非常勤講師	4月1日～ 2025年3月31日	腫瘍・血液内科 部長 茶屋原 菜穂子
5	アストラゼネカ株式会社	東神戸循環器疾患病診連携カンファレンス 座長	4月17日	循環器内科 診療部長 大久保 英明
6	アストラゼネカ株式会社	東神戸循環器疾患病診連携カンファレンス 講師	4月17日	循環器内科 医長 宇津 賢三
7	アストラゼネカ株式会社	東神戸循環器疾患病診連携カンファレンス 講師	4月17日	循環器内科 医長 小田島 進
8	国立大学法人神戸大学	神戸大学大学院保健学研究科	5月1日～7月31日	産婦人科 副院長 森田 宏紀
9	住友ファーマ株式会社	DUAL Symposium in神戸 座長	6月5日	糖尿病・内分泌・総合内科 部長 肥後 里実
10	兵庫県糖尿病協会	糖尿病に関する研修会 講師	6月8日	糖尿病・内分泌・総合内科 部長 肥後 里実
11	神戸薬科大学	神戸薬科大学第25回公開市民講座 講師	6月10日	腎臓内科 副院長 藤森 明
12	日本ストライカー株式会社	VoC@Kiel アドバイザー	6月10日,11日	整形外科 医長 佐々木 優
13	第29回日本緩和医療学会学術大会 第37回日本サイコオンコロジー学会総会 合同学術大会	第29回日本緩和医療学会学術大会 第37回日本サイコオンコロジー学会総会 合同学術大会 シンポジウム25 演者	6月15日	緩和ケア内科 医長 田中 佑加子
14	国立大学法人神戸大学大学院	神戸大学医学部非常勤講師	7月5日	眼科 診療部長 石橋 一樹
15	センチュリーメディカル株式会社	第32回日本乳癌学会学術総会 ランチョンセミナー27(LS27)座長	7月13日	乳腺外科 副院長 高尾 信太郎
16	中外製薬株式会社	中外製薬社員研修会 講師	7月19日	脳神経内科 診療部長 小別所 博
17	テルモ株式会社	テルモ(株)社内講演会 講師	7月31日	循環器内科 診療部長 大久保 英明
18	神戸市立医療センター中央市民病院 耳鼻咽喉科総合聴覚センター	第6回聴覚障害児支援中核機能モデル 事業作業部会 出席	8月1日	産婦人科 副院長 森田 宏紀
19	テルモ株式会社	テルモ(株)社内講演会 講師	8月2日	消化器外科 診療部長 後藤 直大
20	一般社団法人 AOJapan	AO Trauma Course-Basic Principles of Fracture Management for ORP 講師	8月24日～8月26日	整形外科 医長 佐々木 優

No.	派遣先	派遣内容	開催日	派遣職員
21	クックメディカルジャパン合同会社	3rd AKROBAT 講師	8月30日	消化器内科 医長 山中 広大
22	田辺三菱製薬株式会社	第21回六甲Diabetes Heart フォーラム 座長	9月5日	腎臓内科 副院長 藤森 明
23	田辺三菱製薬株式会社	第21回六甲Diabetes Heart フォーラム 座長	9月5日	糖尿病・内分泌・総合内科 部長 肥後 里実
24	神戸市立医療センター中央市民病院 耳鼻咽喉科総合聴覚センター	第5回神戸市聴覚障害児支援中核機能強化事業 協議会 出席	9月12日	産婦人科 副院長 森田 宏紀
25	一般社団法人 兵庫県テニス協会	第99回全日本テニス選手権 東日本大会・西日本大会 大会ドクター	9月12日	整形外科 医員 高見 俊治
26	KMバイオロジクス株式会社	神戸循環器セミナー 座長	9月25日	循環器内科 診療部長 大久保 英明
27	公益社団法人兵庫県看護協会	令和6年度 認知症看護認定看護師教育課程 B課程 講師	9月25日,26日	脳神経内科 診療部長 小別所 博
28	日本イーライリリー株式会社	Lilly Breast Cancer Web Symposium in Hyogo 座長	10月10日	乳腺外科 副院長 高尾 信太郎
29	公益社団法人兵庫県看護協会	令和6年度 認知症看護認定看護師教育課程 B課程 講師	10月16日	脳神経内科 診療部長 小別所 博
30	国立大学法人神戸大学医学部	神戸大学医学部非常勤講師	10月31日	集中治療部 部長 竹田 洋樹
31	国立大学法人神戸大学医学部	神戸大学医学部非常勤講師	11月1日	集中治療部 部長 竹田 洋樹
32	国立大学法人神戸大学大学院医学研究科	神戸大学大学院医学研究科非常勤講師	11月1日～ 2025年3月31日	麻酔科 副院長 出田 眞一郎
33	第一三共株式会社	Sweet Escape Live Symposium 神経障害性疼痛のミカタ 座長	11月21日	糖尿病・内分泌・総合内科 部長 肥後 里実
34	神戸大学大学院医学研究科	兵庫県広域防災センター 消防学校救急救命士養成課程 講師	12月10日	救急科 部長 竹田 洋樹
35	朝日インテックJセールス株式会社	ASAHI Neuro Webinar 講師	12月10日	脳神経外科 医員 重安 将志
36	コーディスジャパン合同会社	Cordis Educational Training Program Morinomiya course 出席	12月11日	循環器内科 専攻医 衛藤 弘章
37	大鶴薬品工業株式会社	社内研修会 講師	12月11日	呼吸器内科 部長 中田 恭介
38	日本内科学会	第246回近畿地方会 「若手奨励賞(初期)1」審査員	12月14日	脳神経内科 診療部長 小別所 博
39	株式会社カネカメディックス	HYOGO Clinical Conference 演者	12月16日	消化器内科 医長 山中 広大
40	田辺三菱製薬株式会社	講師招聘勉強会 講師	2025年1月29日	脳神経内科 診療部長 小別所 博

No.	派遣先	派遣内容	開催日	派遣職員
41	公益財団法人 日本テニス協会	デビスカップ 2025 qualifiers 1回戦 「日本 対 イギリス」 観客ドクター	2025年 1月31日,2月1日	整形外科 医員 高見 俊治
42	インスメッド合同会社	ARIKAYCE® Speaker Engagement Program 事前討議の参加	2月1日,2日	呼吸器内科 部長 中田 恭介
43	扶桑薬品工業株式会社	第10回神戸透析フォーラム 座長	2月4日	腎臓内科 副院長 藤森 明
44	明石市消防局	令和6年度救急実務研修会 講師	2月6日	救急科 部長 竹田 洋樹
45	アルジェニクスジャパン株式会社	FcRn Forum in Kobe 2025 演者	2月14日	脳神経内科 専攻医 宇田 有希
46	アレクシオンファーマ合同会社	NMOSDセミナーin神戸 座長	2月26日	脳神経内科 診療部長 小別所 博
47	ゼリア新薬工業株式会社	消化器外科領域における貧血治療に関する講義 講師	3月4日	消化器外科 診療部長 後藤 直大
48	杏林製薬株式会社	社内勉強会 講師	3月18日	呼吸器内科 部長 中田 恭介
49	日本イーライリリー株式会社	Breast Cancer National symposium 2025 spring 出席	3月29日	乳腺外科 医員 橋本 岳史

## 【2024年度派遣実績:看護部・診療部門】

No.	派遣先	派遣内容	開催日	派遣職員
1	キャンノメディカルシステムズ株式会社 関西支社	第22回関西キャンノCTユーザー会における 講演依頼	2024年6月15日	中央放射線部 主任 福田 正輝
2	学校法人甲南学園甲南小学校	修学旅行の看護師派遣について	5月8日～5月10日	看護部 福島 あや
3	大阪府看護協会	認定看護師の出務について	7月5日	看護部 主任 安岡 裕美
4	第一三共株式会社 兵庫オフィス大会議室	講演会の講師(パネリスト)派遣について	5月17日	薬剤部 部長 奥野 護
5	兵庫医科大学 神戸キャンパス	兵庫医科大学への助産師の出務について	7月22日	看護部 鳥塚 可奈子
6	兵庫県看護協会	認定看護師の出務について	10月31日	認知症疾患医療センター 副師長 保元 由香
7	第一三共株式会社 (三宮グランドビル11階)	講演会の座長派遣について(第3回East Kobe Pharmacist Director's Seminar)	6月7日	薬剤部 部長 奥野 護
8	第一三共株式会社 大阪オフィス会議室	講演会の演者派遣について(近畿ブロック Oncology Pharmacist Conference)	6月29日	薬剤部 主任 川真田 将貴
9	兵庫県看護協会	看護師の出務に関して (認定看護管理者教育課程セカンドレベル総合演習Ⅱ)	7月17日、7月29日、8月7日	看護部 副部長 小西 由佳利
10	神戸医師会看護専門学校	認定看護師の出務について(看護専門課程)	9月26日～10月24日 (毎週木曜日、計5回)	看護部看護支援センター 主任 江川 亜希
11	学校法人甲南学園甲南小学校	甲南小学校の校外学習 看護師の派遣について	7月16日～7月19日	看護部 阪本 未来、碓 萌子
12	日本メジフィジックス株式会社 (WEB開催)	第35回兵庫PET技術研究会における座長依頼	9月27日	中央放射線部 齋藤 一樹
13	第一三共株式会社 兵庫オフィス	認定看護師の出務について (第7回地域の緩和医療を考えるセミナー)	9月11日	看護部看護支援センター 主任 江川 亜希
14	学校法人甲南学園甲南小学校	甲南小学校の校外学習 看護師の派遣について	10月10日～11日	看護部 代喜 響
15	神戸大学大学院医学研究科	認定看護師の出務について (令和6年度神戸大学エキスパートメディカルスタッフ育成プログラム排泄 医療コース「下部尿路機能障害ケア研修」)	9月2日、9月26日、10月5日	看護部 主任 川人 一展
16	関西Nemoto造影CT研究会	第4回関西Nemoto造影CT研究会に係る 講師の派遣について	11月23日	中央放射線部 副主任 前林 瑛里奈
17	神戸大学大学院医学研究科	認定看護師の出務について (下部尿路機能障害ケア研修)	9月2日、9月26日、10月5日	看護部看護支援センター 副師長 松島 佳子
18	一般財団法人 住吉学園	看護師の派遣について (尚歯会(敬老会))	9月21日	看護部 副部長 永井 美裕貴
19	日本看護協会 神戸研修センター	看護師の出務に関して (認定看護管理者教育課程サードレベル)	10月21日、11月5日、11月12日、 11月15日、11月28日	看護部 部長 山原 敦子
20	富士通Japan株式会社	富士通ユーザー会電子カルテフォーラム 「利用の達人」座長対応のお願いについて	11月16日～17日	医療情報部 部長 杉原 敬彦

No.	派遣先	派遣内容	開催日	派遣職員
21	神戸女子大学看護学部	看護師の出務に関して (学びのグループゼミⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ)	2024年12月21日	看護部 別府 紗耶香
22	兵庫県看護協会	看護師の出務に関して (認定看護管理者教育課程ファーストレベル)	12月4日、12月13日	看護部 部長 山原 敦子
23	特別養護老人ホームセラヴィ	認定看護師の出務について(感染症研修)	12月6日	看護部感染管理対策室 師長 窪田 順江
24	日本脳卒中看護学会 認定看護師活動推進委員会	認定看護師の出務について (令和6年度フォローアップ研修)	2025年2月11日	看護部 主任 川人 一展
25	テルモ株式会社	看護師の出務に関して (兵庫県PDナースセミナー)	2024年12月15日	看護部血液浄化センター 師長 中田 裕子
26	神鋼記念病院	看護師の出務に関して (ICLS研修 神鋼記念病院コース)	11月30日	看護部 主任 本澤 利恵、 主任 川人 一展
27	大阪府訪問看護ステーション協会	認定看護師の出務について (利用者さんの「いつもと違う」を感じるための フィジカルアセスメント)	2025年2月15日	看護部 主任 安岡 裕美
28	学校法人大阪慈恵学園 慈恵医療経営管理研究センター	看護師の出務に関して(新入職者導入教育プログラム)	2月19日	看護部 代喜 響
29	学校法人大阪慈恵学園 大阪医療看護専門学校	看護師の出務に関して (就職対策セミナー)	2月13日	看護部 部長 山原 敦子
30	神鋼記念病院	看護師の出務に関して (ICLS研修 神鋼記念病院コース)	2月22日	看護部血液浄化センター 師長 中田 裕子

## (オ)その他の研修

### (a)救急症例検討会

近隣消防救急隊とともに救急搬送された患者のその後の経過、退院転院状況についての説明、疾患についての講義等を行い、救急隊の技量・質の向上を図る。

#### 【2024年度開催実績】

	研修会名	開催日	開催場所	講師(指導者)	参加者・人数
1	甲南医療センター救急セミナー	2025年2月6日	甲南医療センター	甲南医療センター医師	19名 (看護師、消防職員等)

### (b)認知症疾患医療センター症例検討会

認知症疾患医療センターは認知症患者とその家族が住み慣れた地域で安心して生活ができるための支援の1つとして、都道府県や政令指定都市が指定する病院に設置するもので、甲南医療センターは神戸市から指定を受け、その運営を行っている。同センターにおいて、地域における認知症疾患の保健医療水準の向上を目指すために、地域のかかりつけ医・介護施設の医療従事者等を対象にした症例検討会を行う。  
(2024年度は実績なし)

### (C)ICLS(Immediate Cardiac Life Support)コース

ICLSとは、医療機関の為の蘇生トレーニングのことである。甲南会の同コースは、日本救急医学認定コースとなっており、外部医療機関の医療関係者も参加可能なコースとして門戸を広げている。

#### 【2024年度開催実績】

	研修会名	開催日	開催場所	参加者・人数
1	第17回ICLS研修会	6月1日	甲南医療センター	甲南医療センター職員14名、六甲アイランド甲南病院職員2名、神鋼記念病院2名
2	第18回ICLS研修会	9月7日	甲南医療センター	甲南医療センター職員14名、六甲アイランド甲南病院職員2名、神鋼記念病院2名
3	第19回ICLS研修会	12月7日	甲南医療センター	甲南医療センター職員14名、六甲アイランド甲南病院職員2名、神鋼記念病院2名
4	第20回ICLS研修会	2月1日	甲南医療センター	甲南医療センター職員11名、元町HDクリニック1名



## (カ)研修医の育成

診療に従事しようとする医師は、2年以上医学履修過程を置く大学附属病院または医師臨床研修指定病院において研修を受けなければならない。

臨床研修指定病院は、基幹型臨床研修病院と協力型臨床研修病院の2つに分類される。

**基幹型臨床研修病院**： 独自に研修医を雇用し研修プログラムを実施

**協力型臨床研修病院**： 基幹型病院の研修プログラムの一部を担う

甲南会は、2病院で臨床研修指定病院の指定を受けており、全国から幅広く研修医を募集して受け入れ、将来の地域医療を担う医師の育成に取り組む。

**甲南医療センター**： 基幹型病院として急性期医療を通じて様々な症例に対する基本的な知識・技術を習得させるための独自プログラムを作成し、医師の育成に取り組む。

**六甲アイランド甲南病院**： 協力型病院として、他の基幹型病院が自院での研修が難しい分野において、そのプログラムの一部を担い医師の育成にあたる。

### 【2024年度月別研修医数】

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
23	22	21	21	22	21	20	21	23	23	23	24	264

### (a)JMECC(Japanese Medical Emergency Care Course)コース

JMECCとは、心肺蘇生と重篤な急性疾患や病態悪化に適切に対応するための基礎を学ぶ画期的なシミュレーション・プログラムである。このプログラムは、日本救急医学会策定のICLSを基礎に日本内科学会独自の「内科救急」をプログラムに導入した講習会であり、内科専門医となる為には必修とされている。また、講習会は基幹型臨床研修病院であれば、自施設での開催が原則となっている。

甲南医療センターでは、基幹型臨床研修病院であることから2022年度より開催する運びとなった。開催については甲南医療センター、神戸赤十字病院、神戸労災病院、神鋼記念病院の4病院で持ち回りで行うことになった。

## イ 紹介患者や地域住民に対する健康増進や疾病予防への取り組み

### (ア) 紹介患者に対する医療提供

健康相談を通じ、住民に気軽な受診を促し、特にフレイル(加齢により心身が古い衰えた状態)や健康障害への見識を高め、適切な受診行動につながるよう支援する。

【2024年度保健相談室設置実績】 ※参加費は無料

開催回数、 参加者数	相談内容(複数選択あり)								合計
	身体の 異常	健康診断 結果	運動	フレイル・ 認知症	栄養	介護	薬	その他	
12回 (第2金曜日/月) 参加者 計32名	19	0	7	23	10	2	0	0	61

### (イ) 啓発イベント

講演会、予防体操、ヨガ、フットケア等の実践を通じた幅広い啓発イベントを行い、参加者自身の自発的な活動を支援する。

【2024年度開催実績】 ※参加費は無料

	内容	担当	開催回数、 実施日	開催場所	参加者・人数
1	オンラインセミナー 「ベビーマッサージ」	助産師	5回	甲南医療センター	6組(のべ20名) 当院で分娩した母児または 産後ケアを利用した父母児
2	認知症疾患医療センター おしゃべり教室 『本人のキモチ・ 介護する人のキモチ』	看護師	1回 (7月16日)	甲南医療センター	2名(外来患者の家族)
3	糖尿病・腎臓病教室	医師・看護師・管理栄養士・ 薬剤師・理学療法士	1回目(10月29日) 2回目(2月4日)	六甲アイランド 甲南病院	第1回5名、第2回6名 計11名
4	フレイル予防啓発イベント	認定看護管理者 小西 由佳利	1回 (10月12日)	神戸ファッション・ プラザサン広場	地域住民 約24名

### (ウ) 健康教室

疾病予防の啓発を行い、健康増進を図る。

【2024年度開催実績】 ※参加費は無料

	内容	担当	開催日	開催場所	参加者・人数
1	腎臓病教室	医師・看護師・栄養士・薬剤師・ 医療ソーシャルワーカー	11月22日	甲南医療センター	外来患者、 家族合わせて28名
2	糖尿病教室	医師・看護師・栄養士・ 薬剤師・検査技師・療法士・ 事務員	12月13日	甲南医療センター	外来患者25名、 入院患者5名 計30名

## (工) 認知症サロン

認知症の者等(認知症の者及び軽度認知障害(MCI)の者をいう)、その家族ならびにその他の市民に対して、医療的な視点を踏まえて行う認知症に関する教育・予防・相談・交流・情報発信・普及啓発ならびに認知症の者等本人発信及び社会参加の支援であり、神戸市が指定する認知症疾患医療センターが行う診断等支援機能としての必須事業である。認知症疾患医療センターが実施する認知症サロンで、以下のいずれかに該当するものとする。

- ・認知症の疾患教育、ケアの方法等認知症についての知識の向上に関すること
- ・認知症の運動・栄養等に関する教室等の予防に関すること
- ・認知症についての相談に関すること
- ・認知症の者及びその家族同士の交流に関すること
- ・認知症の者によるピアサポート活動に関すること
- ・認知症の者等の家族によるピアサポート活動や家族のレスパイトケアに関すること
- ・認知症に関する情報発信に関すること
- ・認知症に対する理解を得るための普及啓発に関すること
- ・その他認知症の者等及びその家族を支援するもので市長が認めるもの

### 【2024年度開催実績】 ※参加費は無料

No.	内容	開催日	開催場所	対象者
1	コグニラボ	毎月第4木曜日	御影北地域福祉センター、 トラストグレイス御影	地域住民
2	もの忘れおしゃべり教室	奇数月(年6回)	甲南医療センター	地域住民
3	VR体験会	2024年10月28日～11月1日 2025年 3月17日～ 3月21日	甲南医療センター、 六甲アイランド甲南病院、 御影北地域福祉センター	地域住民、 医療関係者
4	上映会	2024年11月28日	御影北地域福祉センター	地域住民、 医療介護関係者

## (オ)市民公開講座

地域住民に対する健康増進、疾病予防の為の公開講座を開催する。

※コロナ感染症の感染拡大防止を鑑み、院内に設置したデジタルサイネージにて講座内容を放映した。

### 【2024年度デジタルサイネージ放映実績】

放映期間	形式	講師	タイトル
2024年4月 ～ 2025年3月	デジタルサイネージ	甲南医療センター 乳腺外科 岡本 明子  甲南医療センター 整形外科 笠原 孝一  働き方改革 厚生労働省  ACP  甲南医療センター 救急科 竹田 洋樹  甲南医療センター 薬剤部 奥野 護	乳房のしこりについて  ロコモティブシンドロームの診断とその治療 脊椎椎体骨折に対する当院の治療  (行政の広報)  人生会議(ACP/アクセスケアプランニング)について 院内外啓蒙用  院内コーディネーター設置の案内  処方箋有効期限の案内

上記に記載した事業内容は、第3次医療法改正により創設された「地域医療支援病院」の医療機能区分と重なるものである。

※甲南医療センターは、2020年7月に兵庫県より「地域医療支援病院名称承認」を受けた。



## (カ)妊婦向けセミナー

妊娠中の食生活や歯の健康、妊娠を楽しむ工夫、妊娠体操、出産準備品の紹介、お産の経過や過ごし方についての啓発活動等を行う。

### 【2024年度開催実績】 ※参加費は無料

	内容	運営	実施状況	開催場所	参加者・人数
1	マタニティ・セミナー	助産師	年24回開催	甲南医療センター	計91組 当院分娩予定の妊婦とパートナー(または家族)が参加
2	オンラインセミナー 「ベビーマッサージ」	助産師	年5回開催	甲南医療センター	6組(延べ20名) 当院で分娩した母児または産後ケアを利用した父母児

## (キ)紹介患者に対する医療提供

地域のかかりつけ医から紹介のあった患者さんに対して、積極的に医療の提供を行い、治療後は、元のかかりつけ医へ逆紹介を行うことで、患者さんの治療とその後の療養へのスムーズな転換が可能となる。

### 【2024年度紹介率・逆紹介率実績】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計
紹介患者数	1,024	1,069	1,054	1,225	1,016	957	1,132	1,069	989	968	959	1,039	12,501
紹介率(%)	80.4%	82.4%	78.0%	81.7%	100.9%	94.0%	75.5%	78.7%	75.6%	77.1%	78.5%	75.6%	80.8%
逆紹介患者数	1,226	1,336	1,147	1,308	1,283	1,222	1,324	1,273	1,259	1,213	1,161	1,370	15,122
逆紹介率(%)	96.2%	103.0%	85.0%	87.3%	127.4%	120.0%	88.3%	93.7%	96.3%	96.6%	95.0%	99.6%	97.8%

## (2)地域完結型医療を推進する事業

### ア 兵庫県保健医療計画に基づく「5疾病6事業及び在宅医療」に対する取り組み

兵庫県は、急速な少子高齢化、医師の地域偏在、診療科偏在、疾病構造の変化など、保健医療を取り巻く状況の変化を踏まえ保健医療計画をまとめており、その中で地域の実情に応じて適切な医療連携を構築することが必要な項目を「5疾病6事業及び在宅医療」として定めている。その中には、小児、周産期等、採算性の観点や医療人材確保の問題から、神戸医療圏においても民間医療機関の撤退が続く分野も含まれている。

甲南医療センター及び六甲アイランド甲南病院においては、この「5疾病6事業及び在宅医療」（へき地医療は除く）を中心とした医療全般の提供に取り組みつつ、地域医療連携の要となつて、地域完結型医療を推進する取り組みを行った。

### (ア)救急医療

救急医療は、社会環境、疾病構造の変化等と密接に連携しており、近年、需要と重要性が高まっている。一方で、救急医療に参加する医療機関は、減少傾向にあり、拡大していく救急医療の必要に応え、救急体制を強化した。

### 【2024年度月別救急受入件数】

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
救急搬送患者数	533	589	559	699	609	567	502	575	706	626	513	556	7,034
救急ウォークイン患者数	431	523	451	551	527	449	487	421	567	490	380	402	5,679

神戸市二次救急病院協議会の休日・夜間救急医療輪番制に参加して、内科・外科等の基本診療科の他、循環器、脳疾患、整形外科、小児科等、他の病院では対応できない診療科目においても積極的に対応する。また、断らない救急を徹底し、地域中核病院としての中心的な役割を果たすことを目指した。  
甲南会の2病院(甲南医療センター・六甲アイランド甲南病院)で連携し、24時間365日ほぼ全診療科の受入を可能とした。

### 【2024年度神戸市二次救急病院協議会 休日・夜間救急医療輪番対応実績数】

	内科	外科	循環器	脳疾患	整形外科	小児科	合計
4月	8	2	6	2	3	8	29
5月	7	1	7	2	3	8	28
6月	7	1	6	2	2	8	26
7月	8	2	7	2	2	9	30
8月	8	2	8	2	2	8	30
9月	7	1	7	2	2	8	27
10月	7	1	8	2	3	8	29
11月	7	2	8	2	2	8	29
12月	6	1	9	2	3	9	30
1月	7	2	6	3	3	9	30
2月	6	2	6	2	2	8	26
3月	7	2	7	2	2	10	30
合計	85	19	85	25	29	101	344

#### (イ)母子医療(小児・周産期医療)

少子化社会においては、分娩数、子供の数は減少傾向にある。しかし、核家族化による親の育児不安と大切に子供を育てたいと言う意識の強まりにより、小児科受診及び救急のニーズは高まっている。また、周産期医療においても、出産年齢の高齢化、低出生体重児の増加で対象者リスクが増し、訴訟リスクが高まっている。それにより、小児科医・産婦人科医は長時間の拘束・過重労働を余儀なくされ、その結果、志望医師の減少、民間の医療機関のこの分野からの撤退を招いている。神戸市でも東灘区、灘区に小児の入院できる病院は甲南医療センター以外にはなくなった。

この現状の中、甲南会は、地域の母子医療を守り、支えていくことを目指した。

甲南会小児科医療は、神戸・三田小児医療連携圏域の小児二次医療機能を担い、24時間365日入院医療を要する小児救急に対応する「小児地域医療センター」に指定されており、圏域の小児医療の中核病院としての機能を担った。

### 【2024年度産婦人科科分娩数】

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
8	6	7	11	9	18	11	13	13	6	7	10	119

### 【2024年度小児科救急受診患者数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
時間外患者数	44	54	43	57	50	48	42	50	58	47	32	34	559
時間外入院	27	23	26	32	26	27	24	28	29	26	19	18	305

圏域の周産期母子医療センターと協力して、ハイリスク妊産婦またはハイリスク新生児に対して、二次救急を行う「協力病院」として指定されており、公的医療機関と連携しながら、ハイリスク周産期医療に対応した。

### 【2024年度産婦人科救急受診患者数（ ）内は妊婦】

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
6 (4)	5 (3)	7 (4)	7 (6)	11 (10)	17 (16)	9 (8)	14 (12)	8 (6)	18 (11)	8 (8)	16 (13)	126 (101)

出産後24時間以内に小児科の診察を行う等、産科と小児科が一体となって、新生児のケアにあたり、新生児から小児期まで切れ目のない診療体制を構築し、ハイリスク新生児の対応にあたる。

## (ウ)災害医療

甲南医療センターは、地震・津波・台風等の災害発生時に、災害医療を行う医療機関を支援する「災害対応病院」として神戸市から指定されており、災害時医療を担っていく下記の体制を構築した。

### (a)災害時の対応

- ・被災地の傷病者等の患者の受入及び治療を行う。
- ・DMATやその他救護班の受入および市が設置する救護所に対し必要な医療活動を実施する。

### (b)平常時の対応

- ・医薬品、衛生資材等の備蓄および対応資機材を整備する。
- ・市が設置する神戸市地域災害救急医療対策会議へ参加する。

### 【2024年度自衛消防訓練実績】

	内容	開催日	開催場所	参加者・人数
1	防火訓練	2024年4月10日 10時～11時	甲南医療センター 東2階病棟	医師・看護師・コメディカル・ 事務職含む 30名
2	防火訓練・防災訓練	2025年3月6日 15時～16時	甲南医療センター 東2階病棟	医師・看護師・コメディカル・ 事務職含む 25名

## (工)重点疾病対策

兵庫県は、県民の健康の保持を図るために広範かつ継続的な医療の提供が必要な、がん、脳卒中、心筋梗塞等の心血管疾患、糖尿病、精神疾患を5疾病として、医療供給体制の構築を計画している。甲南会では、この5疾病に対して、地域医療の中核病院として医療資源を投入し、重点的に取り組んだ。

### (a)がん対策

- ・消化器病センターを設けて、食道から直腸肛門までの、消化管及び肝胆膵領域の消化器系がんに対応するとともに、その他のがん全般にも対応した。
- ・PETセンターを設けて、早期がん細胞の発見に努めた。
- ・緩和ケア病棟を設けて痛みなどの症状コントロール中心の終末期医療を行った。
- ・がん予防対策の1つとして、喫煙の健康への影響に関して啓発活動に努め、六甲アイランド甲南病院では、専門外来を設け、保険適用で禁煙指導を行った。

### 【2024年度緩和ケア病棟運用実績】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均患者数	14.7	11.8	13.7	15.3	17.6	17.3	16.9	15.2	17.7	19.0	19.9	18.8	16.4
在宅等への復帰率(%)	40.6	32.0	25.8	44.8	33.3	40.5	30.0	34.6	38.2	30.8	55.9	26.7	36.1

### (b)脳卒中・脳血管疾患対策

- ・急性期血行再建術に取り組み、脳神経内科および救急科と密な連携を図り、救急患者を受け入れた。

### 【2024年度脳外科救急受入件数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
時間外患者数	18	21	24	30	14	30	26	38	40	35	24	21	26.8
休日夜間初診	17	19	22	28	12	23	24	29	39	32	23	18	23.8

### (c)心血管疾患対策

- ・急性期血行再建術に取り組み、脳神経内科および救急科と密な連携を図り、救急患者を受け入れた。
- ・入院病棟内に心臓リハビリテーション室を設け、入院患者数が無理なくリハビリに取り組めるようになった。

### 【2024年度IVR件数】

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
180	174	167	169	171	193	222	201	241	196	202	220	2336

(d)糖尿病対策

- ・糖尿病センターを設け、患者教育、CSII、CGM、周産期管理、妊娠糖尿病の血糖管理を積極的に取り組み、地域の糖尿病患者診療を支えた。
- ・複数の診療科、看護師、薬剤師、栄養士等の複数の職種のスタッフが協力し、チーム医療として血糖コントロール、合併症検査・治療、患者教育指導にあたった。

【2024年度糖尿病療養指導件数】

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
55	53	54	54	56	49	55	47	54	52	47	54	630

(e)精神疾患・認知症疾患対策

認知症疾患医療センターでは、地域の保健医療・介護機関などと連携を図りながら認知症疾患に関する鑑別診断とその初期対応、周辺症状と身体合併症の急性期治療に関する対応、専門治療相談などを実施することにより、認知症疾患患者とその家族が住み慣れた地域で安心して過ごすための支援を行った。

イ 無料低額診療事業

甲南医療センター、六甲アイランド甲南病院の患者を対象に、経済的事由から診療が困難な患者の、保険診療自己負担分の一部または全額免除を行いました。治療費の免除にあたっては、「施療・減額患者取扱規程」に基づき、公正な運営を行っている。

(単位:円)

			甲南医療センター	六甲アイランド 甲南病院	合計
診療報酬	診療報酬	外来	282,629,529	69,994,240	352,623,769
		入院	187,640	0	187,640
		合計	282,817,169	69,994,240	352,811,409
	減額金額	外来	29,072,008	7,026,190	36,098,198
		入院	53,440	0	53,440
		合計	29,125,448	7,026,190	36,151,638
減額率(%)			10.20%	10.00%	10.20%
取扱患者数	取扱患者数	外来	202,135	61,608	263,743
		入院	143,148	67,360	210,508
		合計	345,283	128,968	474,251
	減額患者数	外来	31,141	10,294	41,435
		入院	4,974	3,074	8,048
		合計	36,115	13,368	49,483
	減額率(%)			10.40%	10.30%

上記「取扱患者数」は、地方税法第348条第2項第10号の適用により、公益目的事業の用に供している固定資産の固定資産税等非課税適用割合に適用されます(10%以上の場合は全額非課税適用)。

## 2. 2024年度決算概況（別紙「決算概況表」「設備投資の状況」参照）

### (1) 甲南会全体概況

#### ①収支概要

2024年度収支は、甲南加古川病院を2024年4月1日付で医療法人伯鳳会へ事業譲渡したことに加え、前年度に計上した新型コロナウイルス感染症対応補助金1,456百万円を含む補助金収入額(施設補助金収入を含む)が1,595百万円から63百万円に激減した影響もあり、経常収支はマイナス1,198百万円の計上となりました(対前年度比1,579百万円減益)。

その内訳として、入院診療収入(室料差額収入を含む)は、前年度比699百万円減(甲南加古川病院の減少分を含む、以下同じ)の13,584百万円となりました。また外来診療収入は、前年度比772百万円減の4,237百万円となり、その他医業収入を含めた医業収入総額では前年度比1,456百万円減の18,623百万円となりました。

一方、医業費用(事業費及び管理費、以下同じ)は、材料費で前年度比514百万円、給与費で613百万円、委託費で94百万円、設備関係費で84百万円(うち減価償却費の減少168百万円)とそれぞれ減少、その他の費用を含めた医業費用総額で前年度比1,543百万円減の19,936百万円となり、その結果、医業収支は前年度比87百万円改善のマイナス1,312百万円となりました。

なお、今年度は甲南加古川病院の事業譲渡に伴う売却益等で242百万円を経常外収入で計上し、同事業譲渡に係る費用及び院内薬局の退去に伴う補償金等で127百万円を経常外費用に計上したことから、法人税等税引後の一般正味財産増加額(当期純利益)はマイナス1,093百万円となりました(指定正味財産からの振替額42百万円を含む)。

#### ②正味財産

上記2024年度収支の結果、正味財産は前年度比1,136百万円減の4,009百万円となりました。

#### ③キャッシュ・フロー

2024年度キャッシュ・フローは、「事業活動」によるキャッシュ・インが88百万円と前年度比3,453百万円の減少となりました。主な要因としては、新型コロナウイルス感染症による補助金収入額の減少(前年度比1,531百万円の減少)及び甲南加古川病院の買掛金等債務の支払いであるが、医業によるキャッシュ・インは引き続き堅調に推移しております。

一方、「投資活動」は、甲南加古川病院の事業譲渡による収入で1,212百万円のキャッシュ・インとなりましたが、同時に同病院の土地・建物他、固定資産の売却により999百万円がキャッシュ・アウトとなり、トータルでは382百万円のキャッシュ・インとなっております。

また、「財務活動」は、新規借入れを行わなかった一方で、長期借入金の約定返済(1,552百万円)を行った結果、トータル1,621百万円のキャッシュ・アウトとなりました(前年度は短期借入額750百万円及び任意返済額810百万円を含めトータル3,235百万円のキャッシュ・アウト)。

以上の結果、2024年度の「現金及び現金同等物の増減」はマイナス1,150百万円となりました。

## (2) 各施設収支概況

### ①甲南医療センター

2019年10月に六甲アイランド甲南病院との間で行った医療機能の再編により入院病床343床の稼働となった甲南医療センターは、その後の東館(旧新館)の改修等により2022年2月にⅡ期工事が完工し、461床の急性期病床を有する総合病院となりました。また、2020年7月には兵庫県より地域医療支援病院の承認を受け、2024年度の紹介率は81%(前年度実績84%)、逆紹介率は98%(同117%)となっております。また不断の救急医療にも取り組み、2024年度救急搬送受入件数は7,037件(前年度実績7,151件)となっております。

上記の経営環境において、甲南医療センターの今年度経常収支は新型コロナウイルス感染症収束に伴う運営補助金の減少(前年度比874百万円減)が大きく影響し、マイナス969百万円(対前年度比861百万円減)となりました。

その内訳として、入院診療収入は患者数が一日あたり1.9名増加、また、診療単価(患者一名一日あたり、以下同じ)も施設基準の上位基準等取得により5,438円上昇したことにより前年度比735百万円増の10,618百万円となりました。また、外来診療収入は、患者数が一日あたり20.4名減少したことに加え、診療単価も205円下降したことにより前年度比128百万円減の3,487百万円。室料差額・その他医業収入を含めた医業収入総額では前年度比619百万円増の14,496百万円の計上となりました。

一方、医業費用は職員増加(前年度比82名増)による給与費負担額の増加(前年度比428百万円の増加)、材料費の増加(前年度比178百万円の増加)、高額医療機器の耐用年数経過による減価償却費の減少(前年度比マイナス117百万円)を含め前年度より568百万円増の15,506百万円となり、医業収支は前年度より51百万円改善のマイナス1,010百万円となりました。

### ②六甲アイランド甲南病院

2019年10月に甲南医療センターとの間で行った医療機能の再編により、入院病床198床の稼働となった六甲アイランド甲南病院は、同月より2階をリハビリテーションセンターとして、また5階と6階を回復期リハビリテーション病棟に改修する工事に入り、2020年3月末には同工事完成、その後、同年9月に急性期一般病床(10対1)34床、地域包括ケア病床104床、回復期リハビリテーション病床60床として入院医療を提供しております。

上記の経営環境において、六甲アイランド甲南病院の今年度経常収支は、病棟改修に伴う修繕費が前年度比プラス99百万円、新型コロナウイルス感染症収束に伴う運営補助金計上額の減少(前年度比マイナス329百万円)による影響もあり、前年度比448百万円減益のマイナス247百万円の計上となりました。

その内訳として、入院診療収入は、病床改修による影響があったものの入院患者数の増加と診療単価の上昇したことにより、前年度比129百万円増の2,482百万円となりました。一方、外来診療収入は診療単価が上昇したが、一日当たりの患者数が減少(▲25.9名)したことが要因となり、前年度比56百万円減の749百万円となりましたが、室料差額その他医業収入を含めた医業収入総額では前年度比81百万円増の3,482百万円の計上となりました。

一方、病棟改修に伴う修繕費が前年度よりプラス99百万円等により、医業費用は前年度より205百万円増の3,761百万円となり、医業収支は医療収入額の増加が医療費用の増加を下回り前年度より124百万円悪化のマイナス278百万円となりました。

#### ④甲南介護老人保健施設

甲南介護老人保健施設の当年度経常収支は、入所者数(短期入所者数含む)及び通所者数は改善し、医業収入が前年度より48百万円増の521百万円となった一方で、給与費が前年度より24百万円の増加、補助金収入が前年度より24百万円の減少となり、経常収支は前年度より6百万円減のマイナス15百万円の計上となりました。

#### ⑤甲南訪問看護ステーション

甲南訪問看護ステーションの当年度経常収入は前年度より2百万円減少の126百万円となった一方で、給与費が前年度より11百万円の増加となり、医業収支は前年度より14百万円減の9百万円、経常収支は前年度より14百万円減の9百万円の計上となりました。

### 3. 附属明細書

一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第34条第3項に規定する事業報告の内容を補足する重要な事項はございません。

## 【決算概況表】

### 【財産の状況】

(単位:百万円(単位未満切捨))

事業年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
<b>【資産の部】</b>					
流動資産	5,877	7,630	8,266	7,399	5,919
現金預金	(2,769)	(4,198)	(4,030)	(3,727)	(2,577)
固定資産	26,117	25,328	26,522	25,132	22,853
基本財産	8,580	8,400	14,886	14,555	13,683
特定資産	333	329	2	1	0
その他の固定資産	17,203	16,599	11,633	10,575	9,169
土地(うち書き、以下同じ)	(2,260)	(2,260)	(2,260)	(2,260)	(1,811)
借地権	(1,122)	(1,122)	(1,856)	(1,856)	(1,856)
建物・構築物	(16,095)	(16,129)	(27,930)	(28,018)	(27,517)
建設仮勘定	(10,600)	(10,628)	(12)	(0)	(0)
医療器械備品	(7,512)	(7,338)	(7,329)	(7,893)	(7,070)
償却累計額	(Δ14,423)	(Δ15,075)	(Δ16,626)	(Δ18,423)	(Δ18,672)
<b>資産 合計</b>	<b>31,994</b>	<b>32,959</b>	<b>34,788</b>	<b>32,531</b>	<b>28,772</b>
<b>【負債の部】</b>					
流動負債	5,118	7,674	5,712	5,849	4,908
固定負債	24,958	22,489	24,049	21,536	19,854
短期借入金	(1,500)	(1,500)	(750)	(0)	(0)
長期借入金(一年内返済額を含む)	(22,495)	(22,022)	(22,661)	(20,249)	(18,696)
<b>負債 合計</b>	<b>30,077</b>	<b>30,164</b>	<b>29,761</b>	<b>27,385</b>	<b>24,763</b>
<b>【正味財産の部】</b>					
正味財産	1,917	2,794	5,027	5,146	4,009
指定正味財産	1,478	1,476	1,502	1,488	1,446
一般正味財産	438	1,318	3,524	3,657	2,563
<b>正味財産 合計</b>	<b>1,917</b>	<b>2,794</b>	<b>5,057</b>	<b>5,146</b>	<b>4,009</b>

## 【収支の状況】

(単位:百万円(単位未満切捨))

事業年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
経常収入	18,199	20,362	22,710	22,123	18,970
医業収入	17,509	18,621	19,175	20,080	18,623
入院診療収入(室料差額収入を含む)	(12,429)	(13,094)	(13,582)	(14,283)	(13,584)
外来診療収入	(4,300)	(4,692)	(4,832)	(5,009)	(4,237)
老人保健施設収入	(494)	(506)	(437)	(461)	(510)
訪問看護収入等	(132)	(149)	(169)	(154)	(125)
賃料収入等(公益法人会計基準により計上範囲変更)	128	129	129	143	82
運営補助金・施設補助金収入	306	1,443	3,238	1,595	63
コロナ関連補助金収入(休床・空床補償)	(0)	(764)	(2,543)	(1,359)	(2)
コロナ関連補助金収入(上記以外)	(250)	(603)	(605)	(97)	(1)
寄附金収入	147	41	36	140	28
その他の収入	107	126	130	164	172
経常費用	18,328	19,465	20,485	21,742	20,168
事業費	18,074	19,395	20,421	21,682	20,116
管理費(2021年度～本部経費配賦基準見直し)	254	69	63	59	52
材料費	(3,484)	(3,948)	(4,201)	(4,615)	(4,100)
給与費	(9,378)	(9,627)	(9,902)	(10,291)	(9,677)
委託費	(1,412)	(1,488)	(1,532)	(1,595)	(1,501)
設備関係費	(1,795)	(1,979)	(2,368)	(2,607)	(2,523)
研究研修費	(22)	(27)	(30)	(35)	(36)
その他医業関係費用	(1,722)	(1,950)	(2,208)	(2,335)	(2,097)
医業外費用	(513)	(444)	(241)	(261)	(231)
経常収支	(Δ128)	897	2,225	381	Δ1,198
(医業収支)	(Δ305)	(Δ399)	(Δ1,068)	(Δ1,400)	(Δ1,312)
経常外収入	13	7	1	2	242
経常外費用	243	1	1	229	127
税引前一般正味財産増減	(Δ358)	902	2,226	154	Δ1,082
法人税等	13	23	19	21	11
一般正味財産増減	(Δ371)	879	2,206	132	Δ1,093

## 【キャッシュ・フローの状況】

(単位:百万円(単位未満切捨))

事業年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
事業活動によるキャッシュ・フロー	Δ823	2,341	3,853	3,542	88
投資活動によるキャッシュ・フロー	Δ3,004	Δ401	Δ3,833	Δ579	Δ382
財務活動によるキャッシュ・フロー	4,608	Δ511	Δ187	Δ3,235	Δ1,621
現金及び現金同等物の増減	780	1,428	Δ167	Δ272	Δ1,150

【施設別収支の状況】

(単位:百万円(単位未満切捨))

事業年度		2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	
甲南医療センター	医業収入	11,004	12,123	13,013	13,876	14,496	
	(入院診療収入)	(入院診療収入)	(7,724)	(8,451)	(9,314)	(9,882)	(10,618)
		[入院患者数<人:1日平均>]	310	315	336	354	357
		[入院単価(円)]	68,360	73,582	75,840	76,132	81,570
		(外来診療収入)	(2,803)	(3,172)	(3,369)	(3,615)	(3,487)
		[外来患者数<人:1日平均>]	714	798	836	852	832
		[外来単価(円)]	16,154	16,425	16,582	17,460	17,255
	医業費用	11,451	12,488	13,721	14,937	15,506	
	医業収支	△447	△364	△708	△1,061	△1010	
	医業外収支(補助金を除く)	△154	△201	6	25	△12	
	補助金収入	275	1,390	1,812	927	52	
経常収支	△326	823	1,110	△108	△969		
六甲アイランド甲南病院	医業収入	3,674	3,606	3,299	3,401	3,482	
	(入院診療収益)	(入院診療収益)	(2,431)	(2,478)	(2,205)	(2,352)	(2,482)
		[入院患者数<人:1日平均>]	175	179	154	172	180
		[入院単価(円)]	38,072	37,968	39,152	37,211	37,745
		(外来診療収益)	(897)	(889)	(856)	(806)	(749)
		[外来患者数<人:1日平均>]	344	318	296	279	254
		[外来単価(円)]	11,194	11,538	11,883	11,879	12,170
	医業費用	3,649	3,641	3,476	3,555	3,761	
	医業収支	25	△35	△177	△154	△278	
	医業外収支(補助金を除く)	△121	2	6	18	22	
	補助金収入	20	37	729	337	7	
経常収支	△75	5	558	201	△247		
甲南加古川病院	医業収入	2,212	2,249	2,275	2,201		
	(入院診療収益)	(入院診療収益)	(1,565)	(1,570)	(1,616)	(1,566)	
		[入院患者数<人:1日平均>]	103	104	89	92	
		[入院単価(円)]	41,836	41,434	49,672	46,199	
		(外来診療収益)	(599)	(630)	(606)	(587)	
		[外来患者数<人:1日平均>]	172	168	162	157	
		[外来単価(円)]	14,349	15,460	15,340	15,321	
	医業費用	2,172	2,283	2,406	2,363		
	医業収支	39	△34	△131	△162		
	医業外収支(補助金を除く)	△9	△4	△2	△4		
	補助金収入	2	11	670	301		
経常収支	33	△27	536	134			

## 【施設別収支の状況】

(単位:百万円(単位未満切捨))

事業年度		2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
甲南介護老人保健施設	医業収入	503	517	445	473	521
	(老人保健施設収益)	(494)	(506)	(437)	(461)	(510)
	【入所患者数<人:1日平均>】	77	77	66	72	72
	【入所単価(円)】	15,278	15,710	15,722	15,545	16,694
	【通所患者数<人:1日平均>】	25	24	20	17	22
	【通所単価(円)】	10,599	11,320	10,457	11,136	11,284
	医業費用	458	499	522	519	549
	医業収支	44	18	△76	△46	△28
	医業外収支(補助金を除く)	9	10	9	10	9
	補助金収入	4	4	24	27	2
経常収支	59	32	△42	△8	△15	
甲南訪問看護ステーション	医業収入	115	124	141	128	126
	(訪問看護収入)	(58)	(65)	(81)	(69)	(67)
	(メデイケア収入)	(46)	(46)	(46)	(46)	(46)
	(居宅介護支援収入)	(9)	(12)	(14)	(13)	(12)
	医業費用	90	108	116	104	116
	医業収支	24	16	25	23	9
	医業外収支(補助金を除く)	0	0	0	0	0
	補助金収入	1	0	0	0	0
経常収支	25	16	25	24	9	

## 【設備投資の状況(当年度<10百万円以上)】

(単位:百万円(単位未満切捨))

資産区分	内容	金額	補足事項/設置場所等
土地	甲南医療センター隣接地(職員駐車場使用用地)	225	甲南医療センター
建物附属設備	病棟改修工事(ナースコール等)	167	六甲アイランド甲南病院
医療機器	モニタリングシステム(Intelli Vue MX500)	19	甲南医療センター
	外科手術用内視鏡システム(VISERA ELITE III)	52	甲南医療センター
その他の器械備品	患者用駐車場カメラ認証式課金システム	20	甲南医療センター
	病棟改修工事(造作家具等)	12	六甲アイランド甲南病院